令和3年度

年報・臨床研究業績集

独立行政法人
国立病院機構 横浜医療センター

はじめに

令和三年度(2021 年度)の病院年報・臨床研究実績集の発行にあたり、ひとこと述べさせていただきます。

本年度は、前年度より続く新型コロナウイルス感染症(コロナ感染症)対応強化と通常診療体制維持の両立を目指し病院を運営してきました。しかし今夏オリンピック後のコロナ感染症第 5 波では、勤労世代に重症患者が急増、当院も開院依頼初めてとなる一病棟閉鎖を実施しました。さらに通常診療を一部縮小することで、医療スタッフを集中治療部門に集約しました。これにより多くの重症患者に高度な治療を実施、コロナ感染症対応拠点病院（重症／中等症）の役割を果たせたと考えています。

このコロナ第 5 波は突然終息しましたが、一般の患者さん方の受診控えはその後も続きました。ただ当院職員のモチベーションは下がることなく、全病院体制でこの両立を維持、結果としてその後多くのコロナ陽性患者が出た第 6 波時には医療体制を制限せず保てた事、管理者として安堵しています。

また前年度は中止が多かった学術集会や研究会等は、オンライン開催が常となり、研究発表や新たな知見を得る機会を保つことができました。まさにネット社会の有用さを実感した年です。これにより昨年度減少（前年度比 10%減）した臨床研究実績は、コロナ関連治験等への参加の影響もあり今年度は大幅に増加（前年度比 40%増)、コロナ禍前の実績を超えました。コロナ対応とともに臨床研究領域でも多くの実績を挙げた病院スタッフを称えるとともに、コロナ診療を含む地域連携体制にご協力いただいた先生方に感謝いたします。

これまで日本は、企業や大学・研究機関等、アカデミアの能力が高く、世界でトップレベルの業績を挙げていました。しかし近年医学だけでなく多くの分野で研究や論文数等が減り、世界から遅れをとり始めています。国が給付する補助金や研究費も縮減傾向です。

しかし未曽有の高齢化社会を迎えている日本を襲ったこのコロナ感染症は、日本の医療や研究に対する考え方を変え始めています。医療者一人一人が科学者としての能力向上すすめ、さらに多くの知見を得る体制を作りたいと考えます。

「政府が用意した 12 兆円の「コロナ予備費」。その 9 割は使い道が判明していない」とも言われます。このコロナ禍をチャンスとし医学研究への関心を高め、より多くの研究費を得たいとかんがえます。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

（独）国立病院機構横浜医療センター　院長　鈴木　宏昌

目　次

１．はじめに　院長　鈴木　宏昌

２．施設の概況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

３．初期臨床研修の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

４．令和３年度部門別研究実績

①　糖尿病内分泌内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
②　感染症内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
③　膠原病・リウマチ内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
④　精神科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
⑤　脳神経内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
⑥　呼吸器内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
⑦　消化器内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
⑧　循環器内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
⑨　腎臓内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
⑩　小児科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４２
⑪　産婦人科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９
⑫　放射線科（治療・診断）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３
⑬　臨床検査科（医師）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５
⑭　救急科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６
⑮　外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６２
⑯　呼吸器外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４
⑰　整形外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６６
⑱　形成外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６７
⑲　脳神経外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６９
⑳　心臓血管外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７３
㉑　皮膚科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７４
㉒泌尿器科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７５
㉓眼科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７６
㉔歯科口腔外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７
㉕耳鼻咽喉科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７９
㉖麻酔科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８０
㉗緩和ケア内科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８１
㉘臨床研究部（治験管理室）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８２
㉙薬剤部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３
㉚放射線診療部（技師）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７

㉛ 臨床検査科（技師） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８８
㉜ 集中管理部（ME） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８９
㉝ 栄養管理室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９０
㉞ リハビリテーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９１
㉟ 看護部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９２
㊱ 看護学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９４
㊲ 相談支援センター(MSW) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９５
㊳ 事務部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９６

5　あとがき　臨床研究部長　小松　達司

施設の概況

1．沿　　革

(1)	昭和18年　6月	戸塚海軍病院として創設
(2)	昭和20年12月	国立戸塚病院として発足（厚生省へ移管）
(3)	昭和24年　1月	国立横浜病院と名称変更
(4)	昭和57年　8月	救命救急センター運営開始
(5)	平成　9年　1月	エイズ拠点病院として受入開始
(6)	平成15年　3月	国立横浜病院と国立横浜東病院を、国立横浜病院の地において統合し、国立病院横浜医療センターとして発足
	平成15年　3月	災害医療拠点病院として認定
(7)	平成16年　4月	国立病院・療養所の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立病院機構　横浜医療センターに名称変更
(8)	平成19年　9月	地域医療支援病院として認定
(9)	平成20年　7月	着工開始
(10)	平成22年　1月	竣工
(11)	平成22年　3月	開院式
(12)	平成22年　4月	新病院オープン 横浜市南西部地域中核病院として位置付 地域周産期母子医療センターとして認定
(13)	平成23年　4月	日本医療機能評価機構（Ver6．0）認定
(14)	平成25年　2月	神奈川DMAT指定病院として指定
(15)	平成25年　4月	神奈川県がん診療連携指定病院
(16)	平成28年　4月	日本医療機能評価機構認定更新（一般病院2）
(17)	平成29年　3月	神奈川 DMAT-L 指定病院として指定
(18)	令和　2年　8月	特定行為研修指定研修機関として指定（術中麻酔管理領域）
(19)	令和　4年　2月	日本医療機能評価機構認定更新（初回認定平成18年4月）（一般病院2　3rdG:Ver2．0） 日本医療機能評価機構認定（救急医療・災害時の医療 Ver1．0）

2. 環　　境

横浜市南西部に位置し、南に湘南の景勝地鎌倉・江ノ島・逗子海岸をひかえ、西に富士箱根の連山を眺望し、東海道松並木道（国道一号線）北側の海抜約50mの高台にある。横浜市と近隣各市を結ぶ交通の要所に位置する関係上、交通も便利である。また、周囲は湘南の一大住宅地である。

3. 土 地 ・ 建 物

① 土　　地	61，651．79㎡	② 建　　物	12，440．78㎡
③ 階　　数	地上7階	④ 建物延面積	40，188．62㎡

4. 病 床 規 模

医 療 法　510床（一般470・精神40）（二次医療圏：横浜西部）

5. 診療科名（３２科）

内科、糖尿病内分泌科、腎臓内科、心療内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、膠原病・リウマチ内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科、緩和ケア内科

6. 診療機能の特色と運営方針診療機能の特色と運営方針

当センターは、①人権を尊重し、思いやりの心をもって、安全で納得していただける患者中心の医療、②急性期の地域医療を基盤として、質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指しつつ、③健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療が受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していくことを理念としている。

救急・専門医療以外にも臨床研究や情報発信、併設する看護学校での看護師養成や医療関係への教育など国立病院機構病院に課せられている使命の実践を果たしていく。

また、横浜市南西部地域中核病院となる地域医療支援病院で①救命救急医療 ②初期・二次救急医療（内科・外科系・小児の二次急患患者）③周産期医療（地域周産期医療セン ター）④精神科合併症医療 ⑤災害医療拠点病院 ⑥エイズ医療（エイズ医療拠点病院）⑦病院機能評価の受審及び認証の取得している。

（1） 救命救急センター

昭和57年8月から運営を開始し、主として脳卒中・頭部外傷・心筋梗塞・急性腹症等の救命医療を行っている。なお、地域救急隊との定期的な会議の開催や救急救命士の研修受入を行うとともに神奈川県及び横浜市から救急情報センターにおける救急救命士の指導医の派遣協力要請を受けて、専門医師の派遣を行っている。平成29年4月からは、ドクターカーの運用を開始し、令和3年7月からは救急車型ドクターカーの運用も開始している。

また、臓器提供施設としても指定されている。

※　臓器提供実績

2016年　脳死下臓器提供　1件
2017年　心停止下臓器提供　1件
　　脳死下臓器提供　1件
2018年　脳死下臓器提供　1件
2021年　脳死下臓器提供　1件

(2) 母子医療センター

昭和60年に母子医療センターを開設し、平成22年4月からは、「地域周産期母子医療センター」として認定され、母体搬送を含めハイリスク及び新生児の受け入れを行っている。NICU9床の施設基準を取得。

(3) エイズ拠点病院

平成9年1月からは、エイズ拠点病院としての受入を行っている。

(4) 専門外来等

外来部門ではがん化学療法外来、補聴器外来、スキンケア外来、母乳外来、　　育児相談、脳神経血管内治療外来等各診療科の特色を活かした専門外来がある。さらに横浜市医師会との連携により地域医療連携システムに参加し、地域の開業医や病院との協力医療を行い、内分泌(院内ではDMケアーユニット)、　循環器医療の地域医療NWを発足させ診療の棲み分け、情報発信を行っている。また、医師会との懇談会を開催し病院運営について意見交換を行っている。平成10年4月から院外処方箋の発行による医薬分業に取り組んでいる。発行率は90%強を維持しており、薬剤管理指導業務などの充実に努めている。

(5) 臨床研究部

平成2年に創設された臨床研究部は1部5室の臨床疫学・病態研究室、病理・免疫研究室、生化学・遺伝子研究室、画像・情報解析研究室、治験管理室からなり、消化器科領域の肝・胆・膵疾患等、特に難治性肝疾患の研究を進めてきているほか、各診療科の様々な疾患の研究に取り組んでいる。さらに臨床部門との連携を図り活性化に努めている。

(6) 地域医療連携部

平成13年6月に地域医療連携室を開設して地域医療機関等との連携を図っている。

平成19年9月26日付で地域医療支援病院としての名称使用承認を得た。

平成31年1月に地域医療連携部として組織変更を行った。

7. 教育・研修(研修指導施設の指定学会一覧は8頁のとおり)

① 臨床研修指定病院(昭和45年4月)の指定を受け、当院の特色を生かした研修を行ってきたが、従来は大学からのストレート研修が主体であった。平成16年から卒後研修が必修化されたのを機会に、マッチングシステムに参加し、全国公募で研修医を募集している。1学年の定員を8名とし、横浜市立大学附属病院、山梨大学附属病院からのいわゆるたすきがけ研修医も受け入れている。

② 当院には附属看護学校が附置されている。看護学校は、昭和38年9月1日国立横浜病院附属高等看護学院(修業年限3年定員1学年40名)として発足した。

昭和45年4月から入学定員が45名となり、昭和50年4月に看護学校と名称変更された。

平成7年3月卒業生より専門士(医療専門課程)の称号が付与された。

平成15年3月1日国立病院横浜医療センター附属看護学校と名称変更された。

平成16年4月1日独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属看護学校と名称変更された。

平成19年4月1日入学定員が1学年80名となった。併せて独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校と名称変更された。

平成26年3月31日文部科学大臣より職業実践専門課程として認定された。

③ 医療専門職の実習受け入れ(看護部、薬剤部、臨床検査科、放射線科、栄養管理室、リハビリテーション科、等)を毎年実施しており、地域の養成機関の要請に応えるとともに、救急救命士の再教育を受け入れている。
また、院内職員の研修にも力を入れ充実を図っている。

④ その他、次のような公開講座等を行っている。
ア、公開医療講座
イ、健康フェア
ウ、救急救命士研修会
エ、患者・家族研修会

8. 患者の状況

(1) 診療科別一日平均患者数

ア　入　院　　(単 位 : 人 、 日)

年度 / 科別	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数
糖尿病内分泌内科	8.6	10.0	10.7	9.6	10.7	10.4	10.2	9.7	9.6	8.9
精神科	30.3	60.1	26.4	64.3	21.8	56.9	14.6	51.1	1.1	33.5
神経内科	33.3	20.8	32.5	22.7	27.3	18.5	27.9	18.7	29.3	19.6
呼吸器内科	22.5	14.3	20.0	11.1	18.5	9.6	17.0	11.0	15.7	9.8
消化器内科	40.0	8.4	41.7	8.7	40.7	8.1	34.4	7.4	33.8	6.8
循環器内科	32.7	7.0	33.8	6.7	35.7	7.0	35.3	6.9	37.3	7.3
膠原病・リウマチ内科	10.3	13.5	12.4	11.6	10.5	12.5	9.2	10.0	9.9	11.7
腎臓内科	6.4	14.5	4.8	15.7	8.8	13.0	6.2	14.0	4.5	11.2
小児科	28.0	7.0	25.7	6.7	25.6	6.7	15.6	6.8	20.2	7.0
外科	34.8	12.6	33.0	12.1	33.7	11.7	27.7	10.8	24.9	9.4
整形外科	43.8	17.9	45.3	18.7	42.8	17.7	38.3	16.6	41.4	18.9
形成外科	0.9	5.7	1.0	5.7	1.1	6.6	0.8	5.0	1.5	6.6
脳神経外科	40.3	18.6	41.5	17.3	39.1	14.9	36.0	15.1	36.4	14.2
心臓血管外科	11.7	13.7	10.4	13.2	11.3	11.6	9.5	9.7	9.6	12.0
呼吸器外科	5.0	11.6	5.2	10.8	4.1	10.8	5.5	11.0	4.1	9.3
皮膚科	5.5	10.5	5.5	11.2	4.8	12.8	4.7	12.8	3.8	9.6
泌尿器科	10.4	6.8	10.5	6.2	10.0	5.8	10.7	6.0	11.0	6.2

産婦人科	27.8	7.0	27.5	6.7	24.4	6.7	20.4	6.2	20.6	6.4
眼科	5.8	3.6	5.9	3.8	5.8	3.8	4.2	3.8	4.5	3.8
耳鼻咽喉科	2.6	5.4	2.4	6.2	3.3	5.7	1.9	5.2	2.0	5.2
歯科口腔外科	1.2	4.2	1.0	3.1	1.2	4.2	1.0	4.0	0.8	2.6
救急科	20.5	5.2	20.2	6.6	18.8	6.0	19.1	5.3	25.1	6.4
計	422.3	11.7	417.2	11.1	399.8	10.1	350.0	10.2	346.9	9.7

イ　外　来　　（単 位 ： 人 ）

年 度 科 別	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
糖尿病内分泌内科	56.4	60.8	64.4	56.0	47.3
精神科	30.1	21.9	17.5	14.6	15.5
神経内科	29.4	29.6	29.4	28.4	30.7
呼吸器内科	33.1	35.0	42.0	40.0	40.9
消化器内科	74.8	73.4	72.5	66.9	74.1
循環器内科	58.6	59.3	54.5	44.0	46.0
膠原病･リウマチ内科	31.0	36.7	38.0	34.5	36.3
腎臓内科	14.0	12.3	14.3	15.4	13.8
小児科	57.8	60.7	61.4	48.2	50.9
外科	39.7	41.1	40.5	39.8	42.1
整形外科	82.0	85.8	80.3	69.3	69.4
形成外科	5.8	6.5	6.1	5.6	7.4
脳神経外科	22.5	22.7	25.0	26.3	26.4
心臓血管外科	9.5	10.0	6.1	11.8	11.5
呼吸器外科	7.4	7.2	11.8	7.1	7.3
皮膚科	36.8	37.7	34.0	29.2	28.3
泌尿器科	36.1	36.6	36.1	37.7	36.3
産婦人科	79.0	79.0	75.0	60.1	62.3
眼科	41.6	43.6	43.3	43.9	48.4

耳鼻咽喉科	17.0	18.4	18.8	16.6	17.1
放射線科	24.1	26.0	21.9	23.2	26.0
歯科口腔外科	27.2	29.0	33.1	30.6	34.2
麻酔科	9.3	8.7	4.2	6.7	7.4
救急科	6.5	5.6	4.5	4.3	5.7
計	829.9	847.8	834.8	760.3	785.5

(2) 母子医療センター取扱患者数

区分 年度	新生児数	分娩件数	ハイリスク妊婦 分娩件数
平成 29 年度	3,458	820	471
平成 30 年度	3,373	809	446
平成 31 年度	2,569	732	451
令和 2 年度	2,205	574	426
令和 3 年度	2,224	599	453

(3) 救命救急センター疾病別新入院患者数

区分 年度	脳卒中	重症心疾患	頭部外傷	その他	合計
平成 29 年度	325	273	147	1,264	2,009
平成 30 年度	260	247	116	1,090	1,713
平成 31 年度	258	225	130	1,019	1,632
令和 2 年度	250	217	126	988	1,581
令和 3 年度	231	201	117	915	1,464

(4) 剖検数調

区分 年度	死亡数	剖検数	剖検率
平成 29 年度	495	1	0.2%
平成 30 年度	516	13	2.5%
平成 31 年度	468	11	2.4%
令和 2 年度	468	7	1.5%
令和 3 年度	456	7	1.5%

初期臨床研修の概要

平成 16 年度に開始した臨床研修制度の下、当院では長く研修医の受け入れを行ってきています。当初の 5 名の定員が研修体制の充実が評価されて、現在の当院基幹プログラムでは 8 名が定員になり、令和 3 年度は 2 学年 16 名が研修を行いました。さらに、横浜市立大学附属病院、市民総合医療センターの 2 病院から合わせて 1 年目 4 名、2 年目 2 名、計 6 名、山梨大学から 1 年目の先生 1 名を受け入れています。

所属は違えど、仲良く 23 名の初期研修医の先生方が日夜、診療と研鑽に励んでくれました。また、それを指導する指導医、上級医は数多く、研修希望者もここ数年高止まりしています。2020 年度からは臨床研修プログラムが大きく変わり、必修科目がより多くなり、一般外来研修も取り入れられました。

しかしながら、COVID-19 パンデミックは研修にも今も影響を与え続けています。夜間、休日の救急外来当番は PPE を着用し、不便な診療を強いられる日々となりました。発熱などの一般的な症状であっても CT 撮影を先行せざるを得ない事も多く、問診や身体診察を大事にすることを学ぶことが少し難しい、臨床推論の進め方も学びにくい様に思われました。

地域医療研修はこれまでの奄美大島にある鹿児島県立大島病院に加え、長崎県平戸市の平戸市民病院も加え、戸塚では体験のできない離島や医療資源の限られた場所での総合診療に従事してもらうことができました。ドクターヘリ搭乗や、へき地診療所での研修、医師のいない離島の

巡回診療も行い、大きな財産になったことと思います。
それらの経験を血肉として、臨床医として必要な基礎をきちんと身に着けた医師に育てるためには、研修内容も協力病院を含めて常にその内容を見直すことが必要と考えています。まぁ、

当院の研修プログラム所属の 2 年目研修医は 3 月の判定会議で無事、全員の研修修了が確認され、正式な医師として後期研修プログラムに進むこととなりました。
なお、2020 年度採用研修医名と進路は以下の通りです。

荒倉　由佳　東京都立小児総合医療センター
飯澤　勇太　千葉大学　救急科
上野　航大　横浜市立大学　消化器科
小栗　絢子　横浜市立大学　救急科
梶山　くるみ　聖路加国際病院　産婦人科
川崎　千瑛　横浜医療センター　外科（消化器外科）
高橋　実来　横浜医療センター　内科（循環器内科）
中島　聡良　東京医科歯科大学　循環器内科

令和３年度部門別研究業績

糖尿病内分泌内科

糖尿病内分泌内科は、糖尿病および内分泌代謝性疾患における地域医療連携への貢献を第一に考え、診療にあたっております。糖尿病診療については、看護部、薬剤部、栄養管理室、臨床検査科、リハビリテーション科とともに、多職種により結成された「糖尿病チームケアユニット」を編成し、標準化されたプログラムで糖尿病チーム医療を行っております。2020 年度より、糖尿病教育入院プログラムに、感情負担度を評価する質問票を取り入れるなど、患者さんの心理的側面からアプローチできる療養指導を目指しております。また、地域における糖尿病治療の平準化に貢献できるよう、2004 年以降、循環型の糖尿病地域連携パスを運用しています。糖尿病治療に貢献できるよう、臨床データを提供することを目指し、糖尿病の臨床研究を開始しております。今後とも、診療および研究面で地域の先生方にお役立て頂けるよう、努力致します。

原著・論文

① Nishimiya N, Tajima K (Co-first), Imajo K, Kameda A, Yoshida E, Togashi Y, Aoki K, Inoue T, Nakajima A, Utsunomiya D, Terauchi Y. Intern Med. 2021 Nov 1; 60(21):3391-3399.

学会・研究会発表

① 田島　一樹、高橋　明裕、末園　太一、奥田　美加、宇治原　誠.
妊娠糖尿病における産後糖代謝異常に関する検討.
第 64 回日本糖尿病学会年次学術総会 2021. 5. 20-5. 22

② 高橋　明裕、田島　一樹、末園　太一、宇治原　誠.
回腸導管再建術後に著明な代謝性アシドーシスおよび高血糖を呈した 2 型糖尿病の 1 例.
第 64 回日本糖尿病学会年次学術総会 2021.5.20-5.22

③ 小栗　絢子、田島　一樹、末園　太一、高橋　明裕、平井　耕太郎、宇治原　誠.
糖尿病を合併した褐色細胞腫の摘出前後に耐糖能改善を認めた 1 例.
第 669 回日本内科学会関東地方会 2021.6.12

④ Mayuko Takahashi, Taichi Minami, Akiko Kameda, Taku Yamada, Hiroko Hiiragi, Fumina Yoshida, Kazuya Okubo, Yasuo Terauchi.
Childhood food education affects the eating behavior of inpatients with type 2 diabetes
The American Diabetes Association's 81st Scientific Sessions. 2021. 6.25-6.29

⑤ 北野　優斗、田島　一樹、末園　太一、高橋　麻侑子、清登　健太、斎藤　聖、平井　耕太郎、宇治原　誠.
心因性ストレスによりカタトニア症状を呈したクッシング症候群の 1 例.
第 671 回日本内科学会関東地方会 2021.9.12

⑥ Yukiko Muroga, Manami Hirono, Erina Shigematsu, Saeko Sugawara, Terumi Hasegawa, Yuki Uhara, Yuuka Kitamura, Ayano Tanaka, Erika Tabata, Tsugumi Murano, Masashi Omura, Kimiko Takahashi, Yaeko Nakatani, Kazuki Tajima, Makoto Ujihara, Taiji Ito.
The 19th International Symposium on Atherosclerosis. Kyoto, Japan, 2021.10.24-10.27.

⑦ 高橋　明裕、田島　一樹、末園　太一、宇治原　誠.
嘔吐発作時に一過性糖代謝異常を認めた周期性 ACTH・ADH 症候群の 1 例.
第 48 回内分泌代謝研究会 2021.11.6

⑧ 大嶋　和海、田島　一樹、高橋　麻侑子、末園　太一、宇治原　誠.
17 年間に及ぶステロイド長期内服後に休薬し副腎皮質機能低下症を呈した 1 例.
第 673 回日本内科学会関東地方会 2021.11.14

⑨ 高橋　麻侑子、田島　一樹、末園　太一、宇治原　誠.
ステロイドにより前葉機能が改善したリンパ球性下垂体炎の 1 例.
第 31 回臨床内分泌代謝 Update 2021.11.26～11.27

⑩ 斎藤　淳、田島　一樹、高橋　麻侑子、末園　太一、宇治原　誠.
メトホルミン内服によるビタミン B12 欠乏性巨赤芽球性貧血をきたした 2 型糖尿病の 1 例.
第 59 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2022.1.22

⑪ 川俣　友佳、田島　一樹、末園　太一、高橋　麻侑子、瓜生　康浩、宇治原　誠.
心室細動による心肺停止蘇生後に診断された先端巨大症の 1 例.
第 675 回日本内科学会関東地方会 2022.2.12

⑫ 館野　友里恵、田島　一樹、末園　太一、高橋　麻侑子、宇治原　誠.
2 型糖尿病としてインスリン導入された 8 か月後に抗 GAD 抗体の陽転化およびインスリン分泌の枯渇を認めた 1 例.
第 676 回日本内科学会関東地方会 2022.3.19

講演

① 田島　一樹

2 型糖尿病における SGLT2 阻害薬の多面的有用性

糖尿病と消化器科疾患 Conference 2021.5.25 横浜

② 田島　一樹

GLP1 受容体作動薬を用いた糖尿病治療～セマグルチドの期待～

GLP1Web 講演会 2021.5.31 横浜

③ 田島　一樹

糖尿病地域連携での取り組み～糖尿病と心不全の関連性も含めて～

Diabetes Web Seminar 2021.6.11　横浜

④ 田島　一樹

糖尿病チーム医療連携の取り組みについて

Diabetes Incretin Web Seminar in Totsuka 2021.8.31　横浜

⑤ 田島　一樹

糖尿病診療における SGLT2 阻害薬の位置づけ

Kowa Web Conference 2021.9.8

⑥ 末園　太一

Ideg/Lira 配合注の臨床使用の経験

New Injection Therapy Web Seminar 2021.9.16　横浜

⑦ 田島　一樹

シンプルなインスリン治療を目指して～Ideg/Lira 配合注の臨床使用経験も含めて～

Web 講演会 2021.10.15　横浜

⑧ 田島　一樹

糖尿病地域医療連携の取り組み～QOL を意識した治療を目指して～

神奈川県糖尿病・慢性便秘症を考える会 2021.11.15　横浜

⑨ 田島　一樹

シンプルなインスリン治療を目指して～Ideg/Lira 配合注の臨床使用経験も含めて～

第 23 回横浜糖尿病アーベント 2021.11.17 横浜

⑩ 田島　一樹

糖尿病合併高血圧を考える

高血圧診療を考える会 2021.12.21 横浜

⑪ 田島　一樹

日本人糖尿病患者の病態と疫学

Dual Symposium in yokohama 2022.1.18 横浜

⑫ 田島　一樹

シンプルなインスリン治療を目指して～Ideg/Lira 配合注の臨床使用経験も含めて～

Teams Web 講演会 2022.2.16 川崎

⑬ 田島　一樹

糖尿病患者さんの QOL を意識した治療をめざして

Kanagawa Diabetes Conference 2022.2.18 横浜

⑭ 田島　一樹

高血圧患者においてエンレストが適する患者像を考える

高血圧 Forum in 戸塚 2022.3.23 横浜

コメンテーター

① 田島　一樹

第 55 回神奈川内分泌代謝セミナー2021 2021.10.23 横浜

② 田島　一樹

第 48 回内分泌代謝研究会 2021.11.6 東京

コメンテーター特別賞受賞

座長

① 宇治原　誠

武田代謝・内分泌　Web Symposium 2021.4.2 横浜

② 田島　一樹

トルリシティ Web conference 2021.4.21 横浜

③ 宇治原　誠

糖尿病と消化器科疾患 Conference 2021.5.25 横浜

④ 宇治原　誠

第 8 回糖尿病　Expert Meeting 2021.6.10　横浜

⑤ 宇治原　誠

代謝・内分泌　Web Symposium 2021.7.30 横浜

⑥ 宇治原　誠

Diabetes Incretin Web Seminar in Totsuka 2021.8.31　横浜

⑦ 宇治原　誠

LOKELMA Online Symposium 2021.9.6 横浜

⑧ 宇治原　誠

横浜市南西部糖尿病講演会 2021.9.10 横浜

⑨ 田島　一樹

トルリシティ Web conference 2021.9.15 横浜

⑩ 宇治原　誠

第 55 回神奈川内分泌代謝セミナー2021 2021.10.23 横浜

⑪ 田島　一樹

バクスミー Web 講演会 2021.11.1 横浜

⑫ 田島　一樹

糖尿病地域医療連携の会 2021.11.8 横浜

⑬ 田島　一樹

トルリシティ Web conference　2021.11.10 横浜

⑭ 宇治原　誠

横浜西部地区脂質異常症 WEB カンファレンス 2021.12.20 横浜

⑮ 田島　一樹

第 59 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2022.1.22

⑯ 田島　一樹

糖尿病と便秘を考える会 2022.2.9 横浜

⑰ 宇治原　誠

DiaMond Seminar in KANAGAWA 2022.2.14

⑱ 宇治原　誠

Kanagawa Diabetes Conference 2022.2.18 横浜

⑲ 田島　一樹

Insulin Online conference 2022.2.25 横浜

⑳ 田島　一樹

Diabetes＆Incretin Online Seminar in 神奈川 2022.3.16 横浜

㉑ 宇治原　誠

高血圧 Forum in 戸塚 2022.3.23 横浜

感染症内科

AST(Antimicrobial　Stewardship Team)は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師からなるチームで、毎週火曜日の午後に活動しています。
感染症に関してお困りのことがありましたら、ご相談お待ちしています。
感染症内科専門医師は毎週火曜日午後の外勤医師１名と、他スタッフは常勤です。

原著・論文
なし。

学会・研究会発表
なし。

膠原病・リウマチ内科

2021 年度業績

① 論文、総説

Rituximab and mepolizumab combination therapy for glucocorticoid-resistant myocarditis related to eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.

Higashitani K, Yoshimi R, Sato Y, Watanabe T, Ihata A.

Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Jan 7;6(1):87-92. doi: 10.1093/mrcr/rxab022.

PMID: 34473835

② 著書

井畑　淳、支部創立 50 周年記念誌会報かながわ 132 号

井畑　淳、第一部 I-4、関節リウマチの診断の基準は？、メディカルスタッフのためのライフステージに応じた RA 患者支援ガイド、羊土社

井畑　淳、第一部 I-5、どのような血液検査が行われるのか？、メディカルスタッフのためのライフステージに応じた RA 患者支援ガイド、羊土社

井畑　淳、第一部 I-6、どのような画像検査が行われるのか？、メディカルスタッフのためのライフステージに応じた RA 患者支援ガイド、羊土社

③ 学会・研究会発表

井畑　淳、CTD-ILD の診断と治療戦略、CTD-ILD Web Academy, 2021/6/16

井畑　淳、パネルディスカッション、Lilly RA Web Seminar, 2021/6/24

井畑　淳、コメンテーター、Sarilumab And Rheumatology Internet Seminar the 3rd、2021/6/28

井畑　淳、JAK 阻害剤使用における注意点、ゼルヤンツ　Meet the Specialist in　神奈川、2021/7/6

井畑　淳、New Normal における RA 診療～EULAR2021 を受けて～、リウマチエリア web セミナー、2021/7/14

井畑　淳、関節リウマチ診療の薬病連携を考える会、2021/7/19

井畑　淳、リウマチ性疾患の新知見について～EULAR2021 Paris からの波～、湘南 JAK Expert Seminar, 2021/8/18

井畑　淳、関節リウマチ診療における副作用マネジメント、神奈川リウマチ性疾患カルテットカンファレンス、2021/9/1

井畑　淳、コメンテーター、Sarilumab And Rheumatology Internet Seminar the 4th、2021/9/27

大野　恵理子、ディスカッサント、リウマチ合併症セミナー、2021/10/14

井畑　淳、コメンテーター、JAK を語る～tell of JAK's experiences～Part 4, 2021/10/19

井畑　淳、付着部炎と IL-17、Taltz Focus Week Web Conference, 2021/10/25

井畑　淳、IL-17 と付着部炎、神奈川リウマチエキスパートネットワークウェブミーティング、2021/11/10

井畑　淳、新型コロナウイルス感染症～COVID-19～、厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患政策研究事業、自己免疫疾患に関する調査研究班/強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診断ガイドライン・疾患レジストリに関する研究班　合同開催患者様向け　医療講演会、2021/11/8-12/5

井畑　淳、PsA 治療における JAK 阻害剤の位置づけについて、PsA web seminar～リウマチ医・皮膚科医から学ぶ～、2021/11/30

井畑　淳、パネリスト、CTD-ILD Web Seminar, 2021/12/8

井畑　淳、脊椎関節炎のトピック～ACR2021 から～、Lilly PsA WEB Seminar, 2021/12/23

井畑　淳、コメンテーター、Sarilumab And Rheumatology Internet Seminar the 5th、2022/1/24

井畑　淳、関節リウマチの診療～選択の時代になった JAK 阻害剤のこれから～、湘南リウマチセミナー、2022/2/3

井畑　淳、関節リウマチの診療～選択の時代になった JAK 阻害剤のこれから～、YOKOHAMA JAK WEB SEMINAR, 2022/3/1

井畑　淳、リウマチ性疾患における抗線維化療法の位置づけ、ILD web Academy, 2022/3/14

④ 座長

井畑　淳、PF-ILD Expert Seminar in KANAGAWA、2021/5/18

井畑　淳、神奈川リウマチ医会学術講演会、2021/7/10

井畑　淳、JAK Conference in Kanagawa, 2021/7/21

井畑　淳、神奈川リウマチ性疾患 Evidence 検証研究会、2021/9/9

井畑　淳、Kanagawa RA Bone Health Age free Conference 2nd, 2021/10/8

井畑　淳、リウマチ合併症セミナー、2021/10/14

井畑　淳、Kanagawa RA Bone Health Age free Conference 3rd, 2022/3/8

精神科

精神科では精神保健指定医 3 名、非指定医 2 名の計 5 名が常勤医として診療に当たっています。

対象疾患としては気分障害（うつ病、躁うつ病など）、心身症、不安障害、パニック障害、不眠症、統合失調症、器質性精神障害、認知症、発達障害、摂食障害など、精神疾患全般の診断・治療を行います。

ただし、依存症（アルコール、薬物）や児童・思春期の精神的な問題などの治療は専門性が高いため他の専門機関へ紹介しております。また、ナルコレプシーは当院では検査、治療は行えません。

専門性の高い介入としては、初期認知症の鑑別を行う物忘れ外来を設けております。

加えて、昨今話題に上がりやすい自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)などの鑑別を目的とした心理検査を施行しております。

入院では麻酔科医師の協力のもと修正型電気けいれん療法を施行しております。総合病院と言う特性上、合併症を持つ高齢の患者さんにも十分なリスク管理の下に施行できるメリットがあります。

なお、当院は診療体制上、興奮や暴力、その他の行動面での問題が著しい方の対応は困難となっておりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。

学会・研究会発表

①児島ゆう子

コラージュ療法に関する基礎的研究-精神疾患による検討-

日本心理臨床学会　第 40 回大会プログラム　　2021/9/3～9/9

脳神経内科

論文、総説

①Miyatake S, Yoshida K, Koshimizu E, Doi H, Yamada M, Miyaji Y, Ueda N, Tsuyuzaki J, Kodaira M, Onoue H, Taguri M, Imamura S, Fukuda H, Hamanaka K, Fujita A, Satoh M, Miyama T, Watanabe N, Kurita Y, Okubo M, Tanaka K, Kishida H, Koyano S, Takahashi T, Ono Y, Higashida K, Yoshikura N, Ogata K, Kato R, Tsuchida N, Uchiyama Y, Miyake N, Shimohata T, Tanaka F, Mizuguchi T, Matsumoto N: Repeat conformation heterogeneity in cerebellar ataxia, neuropathy, vestibular areflexia syndrome. Brain. 145(3):1139-1150, 2022.

②Yamaura G, Ito T, Miyaji Y, Ueda N, Nakae Y, Momoo T, Nakano T, Johmura Y, Higashiyama Y, Joki H, Doi H, Takeuchi H, Takahashi T, Koyano S, Yamaguchi S, Yokoyama M, Tanaka F: Therapeutic efficacy of heparin and direct factor Xa inhibitors in cancer-associated cryptogenic ischemic stroke with venous thromboembolism. Thrombosis Research 206:99-103, 2021.

③Akagi Y, Iketaki A, Nakamura R, Yamamura S, Endo M, Morikawa K, Oikawa S, Ohta T, Tatsumi S, Suzuki T, Mizushima A, Koido K, Takahashi T: Association between Cerebral Infarction Risk and Medication Adherence in Atrial Fibrillation Patients Taking Direct Oral Anticoagulants. Healthcare. 9(10):1313, 2021.

著書

無し

学会・研究会発表

講演など

①第 24 回横浜脳卒中・リハ連携研究会．開会の辞．Web．2021.6.23

②高橋竜哉：視神経脊髄炎を考える会．パネリスト．Web．2021.6.25

③高橋竜哉：神経難病を学ぼう② 多系統萎縮症．ほーめっと．講師．Web．2021.7.20

④高橋竜哉：神経難病を学ぼう③ 筋萎縮性側索硬化症．ほーめっと．講師．Web．2021.8.26

⑤渡邉裕樹：パーキンソン病治療を考える会 in 横浜西部．講師．Web．2021.9.17

⑥高橋竜哉：神経難病を学ぼう① パーキンソン病．ほーめっと．講師．Web．2021.9.30

⑦高橋竜哉：令和 3 年度緑区難病講演会「重症筋無力症」．講師．ハイブリッド．2021.12.3

⑧高橋竜哉：脳卒中における急性期以降のケアを意識した地域連携医療の重要性．
Neurology Web Seminar．講師．Web．2022.2.14

座長

①高橋竜哉：Yokohama COIN Seminar on NMOSD．座長．Web．2021.5.18

②高橋竜哉：横浜南西部 PSC Web Seminar．座長．Web．2021.5.25

③高橋竜哉：第 237 回日本神経学会関東・甲信越地方会．座長．Web．2021.6.5

④高橋竜哉：横浜南西部 Emgality Web Seminar．座長．Web．2021.6.22

⑤高橋竜哉：第 238 回日本神経学会関東・甲信越地方会世話人会．司会．Web．2021.9.4

⑥高橋竜哉：パーキンソン病治療を考える会 in 横浜西部．座長．Web．2021.9.17

⑦高橋竜哉：脳卒中チーム医療セミナー in 横浜．座長．Web．2021.10. 6

⑧高橋竜哉：Monthly AJOVY WEB Lecture．座長．Web．2021.10.27

⑨高橋竜哉：パーキンソン病 Web セミナー．座長．Web．2021.11.25

⑩高橋竜哉：2021 年度日本神経学会関東・甲信越地区生涯教育講演会．座長．Web．2021.12.5

⑪高橋竜哉：Parkinson’s Disease in Yokohama Web Seminar．座長．Web．2022.1.13

⑫高橋竜哉：横浜南西部 PSC Web Seminar．座長．Web．2022.2.8

⑬高橋竜哉：横浜脳疾患地域連携懇話会セミナー．座長．Web．2022.2.10

⑭高橋竜哉：Cardiovascular & sleep for the day．座長．Web．2022.2.24

世話人・幹事

①高橋竜哉：第 24 回神奈川脳神経科医会　幹事会・世話人会．世話人．Web．2021.4.22

②高橋竜哉：第 237 回日本神経学会関東・甲信越地方会世話人会．世話人．Web．2021.6.5

③高橋竜哉：第 18 回横浜パーキンソン病治療研究会世話人会．世話人．2021.7.8

④高橋竜哉：神奈川神経・血管超音波セミナー世話人会．世話人．Web。2021.7.27

⑤高橋竜哉：湘南神経談話会世話人会．世話人．Web．2021.11.9

⑥高橋竜哉：第 239 回日本神経学会関東・甲信越地方会世話人会．世話人．Web．2021.9.4

⑦高橋竜哉：神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会世話人会．世話人．Web．2021.12.19

⑧高橋竜哉：第 28 回横浜市脳血管疾患救急医療機関幹事会．幹事．Web．2021.12.22

⑨高橋竜哉：第 18 回横浜市脳血管疾患救急医療機関連絡会．幹事．Web．2022.1.26

⑩高橋竜哉：横浜脳卒中・リハ連携研究会世話人会．世話人．Web．2022.3.9

会長

①高橋竜哉：第 238 回日本神経学会関東・甲信越地方会．会長．Web．2021.9.4

呼吸器内科

令和4年度の呼吸器内科は、常勤3名（釣木澤、間邊、増本）、期間職員3名（長田、本林、仲出川）の計6名と心機一転のメンバーで通常業務の傍ら、臨床研究、学会発表を行っています。日常診療では肺癌などの悪性疾患、COPD、非結核性抗酸菌症、間質性肺炎等の一般呼吸器疾患に加え、気管支喘息（BA）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）、アレルギー性気管支肺真菌症（ABPM）などの多彩なアレルギー疾患の診療も行い、今年度より日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設に認定されました。研究ではBA、EGPA、ABPMなどのアレルギー疾患を対象とした臨床研究や、真菌が関与する疾患の環境調査、抗原解析などを国立医薬品食品衛生研究所と共同研究を実施しています。本年度はアレルギー学会学術大会（2演題）、アレルギー学会関東地方会（3演題）、呼吸器学会関東地方会（2演題）で発表・発表予定です。上記の成果は論文として現在、投稿準備中です。

学会・研究会発表
①椿原基史　後藤秀人　須藤成人　廣瀬知文　梶田至仁　金子猛
当科での気管支喘息診療における生物学的製剤（BIO）の選択理由やその経過についての臨床的 検討
第244回日本呼吸器学会関東地方会　2021.5.29
②金子舞　本林優人　梶田至仁　須藤成人　間邊早紀　椿原基史　増田晴彦　渡部克也　後藤秀人　金子猛
肺癌による続発性気胸に対して EWS による気管支充填術が奏効した一例
第248回日本呼吸器学会関東地方会
第181回日本結核/非結核性抗酸菌症学会関東支部会　2022.2.26
③梶田至仁　須藤成人　椿原基史　間邊早紀　金子舞　本林優人　後藤秀人　金子猛
小細胞肺癌治療後8年の経過で発症した Leser-Trélat sign を呈した肺扁平上皮癌の1例
第676回　日本内科学会関東地方会　2022.3.19

座長など
①間邊早紀
実臨床での慢性気管支炎・肺気腫の診断と治療を再考する
戸塚区・泉区地域医療連携 COPD 講演会　2021.8.23

消化器内科

消化器内科は常勤スタッフ 8 名、専攻医および非常勤医師 5 名の計 13 名で診療しております。R3 年 4 月から、新たな肝疾患専門医、胆膵疾患専門医が赴任し、これまで大学で行われていたような検査・治療についてもほぼカバーできるようになりました。当院で対応できる検査・治療の一部を以下に紹介させて頂きます。

肝臓領域
・フィブロスキャンを用いた肝線維化進展度の評価
・造影超音波検査による肝腫瘍の診断
・人工胸水、人工腹水下でのラジオ波焼灼術（RFA）
・肝動脈化学塞栓療法
・経頸静脈的肝生検
・経頸静脈的肝静脈圧測定

胆膵領域
・ERCP による胆膵疾患の診断・治療
・超音波内視鏡による悪性疾患（膵癌、胆道癌など）・良性疾患（総胆管結石、早期慢性膵炎など）の診断
・超音波内視鏡下穿刺吸引法による胆膵疾患、粘膜下腫瘍、腫大リンパ節の診断
・超音波内視鏡を用いたインターベンション治療
・術後再建腸管に対する小腸鏡を用いた胆膵疾患の診断・治療

消化管領域:
・吐下血など消化管出血に対する救急対応
・食道・胃・大腸腫瘍性病変に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を中心とした内視鏡治療
・小腸鏡を用いた小腸病変の精査・治療
・消化管悪性狭窄に対するステント治療
・OTSC を用いた内視鏡的瘻孔閉鎖術や止血困難例に対する治療

R4 年度から『膵癌早期診断プロジェクト』を立ち上げ早期膵癌発見への取り組みを積極的に行っています。当科ホームページを是非、御参照ください。

原著論文

①Kuzuu Kento, Noboru Misawa, Keiichi Ashikari, Takaomi Kessoku, Shingo Kato, Kunihiro Hosono, Masato Yoneda, Takashi Nonaka, Shozo Matsushima, Tatsuji Komatsu, Atsushi Nakajima, Takuma Higurashi et al.

Gastrointestinal Cancer Stage at Diagnosis Before and During the COVID-19 Pandemic in Japan

Journal of American Medical Association Netw Open. 2021 Sep 1;4(9):e2126334. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2021.26334. JAMA Netw Open. 2021. PMID: 34546368 Free PMC article.

②Hayato Yamana, Shinobu Imai, Kazumi Yamasaki, Hiromasa Horiguchi, Keisuke Ario, Tatsuji Komatsu, Rie Sugimoto, Shinji Katsushima, Atsushi Naganuma,
Yutaka Mano, Tsutomu Yamashita, Hiroshi Kamitsukasa, Satoru Tsuruta, Taisuke Jo, Hideo Yasunaga, Kiyohide Fushimi, Hiroshi Yatsuhashi

Prognosis of patients with liver cirrhosis: A multi-center retrospective observational study

Hepatology Research 2021 Dec;51(12):1196-1206. doi: 10.1111/hepr.13711. Epub 2021 Sep 21

③Koki Nagai, Yuji Ogawa, Takashi Kobayashi, Michihiro Iwaki, Asako Nogami, Yasushi Honda, Takaomi Kessoku, Yusuke Saigusa, Kento Imajo, Masato Yoneda, Hiroyuki Kirikoshi, Tatsuji Komatsu, Satoru Saito, Atsushi Nakajima

Gastroesophageal varices evaluation using spleen-dedicated stiffness measurement
by vibration-controlled transient elastography

Journal of Gastroenterology and Hepatology Open 2021 Dec 14;6(1):11-19. doi: 10.1002/jgh3.12689. eCollection 2022 Jan.

④Yoneda M, Yamamoto T, Honda Y, Imajo K, Ogawa Y, Kessoku T, Kobayashi T, Nogami A, Higurashi T, Kato S, Hosono K, Saito S, Nakajima A.

Risk of cardiovascular disease in patients with fatty liver disease as defined from the metabolic dysfunction associated fatty liver disease or nonalcoholic fatty liver disease point of view: a retrospective nationwide claims database study in Japan.

J Gastroenterol. 2021 Nov;56(11):1022-1032. doi: 10.1007/s00535-021-01828-6. Epub 2021 Oct 3. PMID: 34601620

⑤Tarao Kazuo; Nozaki Akito; Komatsu Hirokazu; Komatsu Tatsuji; Taguri Masataka; Tanaka Katsuaki; Yoshida Testuo; Koyasu Hideki; Chuma Makoto; Numata Kazushi; Maeda Shin.

Comparison of unenhanced magnetic resonance imaging and ultrasound in detecting very small hepatocellular carcinoma

World Journal of hepatology　13(6) 699-708 2021.6.11

⑥小川祐二，結束貴臣，山田英司，野中敬，米田正人，今城健人，松島昭三，小松達司，中島淳

【ガイドライン 2020 から読み解く NAFLD/NASH】疫学・病態　腸内細菌、Leaky gut と NAFLD/NASH（解説/特集）

肝胆膵 83 (1) 39-45, 2021.

⑦米田正人，野上麻子，本多靖，斉藤聡，海老澤佑，留野渉，加藤孝征，坂本康成，小川祐二，今城健人，中島淳

特集Ⅱ　内科医が知っておくべき肝臓病理

「肝臓線維化把握のために肝生検はいまだに必要か」

消化器・肝臓内科，9(6)：651-658，2021

⑧米田正人，小林貴、本多靖，結束貴臣、岩城慶大、野上麻子，斉藤聡，海老澤佑，留野渉，加藤孝征，坂本康成，小川祐二，今城健人，中島淳

特集Ⅱ　肝疾患における食事・生活指導

「肝疾患と腸内細菌―プロバイオティクスは肝疾患に有用か？―」

消化器・肝臓内科，10(4)：506-512，2021

⑨米田正人，留野渉、本多靖，小林貴、野上麻子，斉藤聡，海老澤佑，加藤孝征，坂本康成，小川祐二，今城健人，中島淳

Part 3：NAFLD/NASH

「NAFLD/NASH におけるサルコペニア肥満の現状と対策」

臨床栄養 139(4)：561-565,2021.9（臨時増刊号）

⑩ Eiji Yamada [1], Seishi Tsunoda [2], Masumi Mimura [3], Masashi Akizuki [4], Yoichiro Miyazawa [5], Toshihiro Yamazaki [6], Yasuhiko Nagano [7], Reiko Murakami [8], Takashi Kitahara [9], Junichi Wakasugi [10], Yukihiro Ozawa [11], Tatsuji Komatsu [1], Masahiko Inamori [12], Kazuki Nagai [13], Atsushi Nakajima [14]

Positioning of Bristol Stool Form Scale type 3 in constipation treatment satisfaction: A multicenter study in Japan

J Gastroenterol Hepatol　2021 Aug;36(8):2125-2130.　doi: 10.1111/jgh.15428. Epub 2021 Feb 10

⑪Masato S, Yusuke S, Kunihiro H et al. Endoscopic ultrasound versus magnetic resonance cholangiopancreatography for the diagnosis of computed tomography-negative common bile duct stone: Prospective randomized controlled trial. Digestive Endoscopy. doi:10.1111/den.14193.

⑫Masato S, Yusuke S, Kunihiro H et al. Optimal number of needle punctures in endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy for gastric subepithelial lesions without rapid on-site evaluation. J Med Ultrason 2021; 48(4): 623-629.

⑬Kawamura N, Imajo K, Kalutkiewicz KJ, Nagai K, Iwaki M, Kobayashi T, Nogami A, Honda Y, Kessoku T, Ogawa Y, Higurashi T, Hosono K, Takahashi H, Yoneda M, Saito S, Aishima S, Toyoda H, Hayashi H, Sumida Y, Ehman RL, Nakajima A.
Influence of liver stiffness heterogeneity on staging fibrosis in patients with nonalcoholic fatty liver disease.
Hepatology. 2021 Dec 24. doi: 10.1002/hep.32302. Online ahead of print.
PMID: 34951726

⑭Shao X, Uojima H, Arai T, Ogawa Y, Setsu T, Atsukawa M, Furuichi Y, Arase Y, Horio K, Hidaka H, Nakazawa T, Kako M, Kagawa T, Iwakiri K, Nakajima A, Terai S, Tanaka Y, Koizumi W.
The risk of cirrhosis and its complications based on PNPLA3 rs738409 G allele frequency.
Dig Dis. 2021 Nov 22. doi: 10.1159/000521062. Online ahead of print.
PMID: 34808618

⑮Kessoku T, Kobayashi T, Imajo K, Tanaka K, Yamamoto A, Takahashi K, Kasai Y, Ozaki A, Iwaki M, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Kato S, Higurashi T, Hosono K, Yoneda M, Okamoto T, Usuda H, Wada K, Kobayashi N, Saito S, Nakajima A.
Endotoxins and Non-Alcoholic Fatty Liver Disease.
Front Endocrinol (Lausanne). 2021 Oct 29;12:770986. doi: 10.3389/fendo.2021.770986. eCollection 2021.
PMID: 34777261

⑯Honda Y, Ozaki A, Iwaki M, Kobayashi T, Nogami A, Kessoku T, Ogawa Y, Tomeno W, Imajo K, Yoneda M, Saito S, Nagashima Y, Nakajima A.
Protective effect of SGL5213, a potent intestinal sodium-glucose cotransporter 1 inhibitor, in nonalcoholic fatty liver disease in mice.
J Pharmacol Sci. 2021 Oct;147(2):176-183. doi: 10.1016/j.jphs.2021.07.002. Epub 2021 Jul 8.
PMID: 34384565

⑰Kessoku T, Kobayashi T, Tanaka K, Yamamoto A, Takahashi K, Iwaki M, Ozaki A, Kasai Y, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Kato S, Imajo K, Higurashi T, Hosono K, Yoneda M, Usuda H, Wada K, Saito S, Nakajima A.
The Role of Leaky Gut in Nonalcoholic Fatty Liver Disease: A Novel Therapeutic Target.Int J Mol Sci. 2021 Jul 29;22(15):8161. doi: 10.3390/ijms22158161.
PMID: 34360923

⑱Imajo K, Kessoku T, Honda Y, Hasegawa S, Tomeno W, Ogawa Y, Motosugi U, Saigusa Y, Yoneda M, Kirikoshi H, Yamanaka S, Utsunomiya D, Saito S, Nakajima A.
MRI-Based Quantitative R2* Mapping at 3 Tesla Reflects Hepatic Iron Overload and Pathogenesis in Nonalcoholic Fatty Liver Disease Patients.
J Magn Reson Imaging. 2022 Jan;55(1):111-125. doi: 10.1002/jmri.27810. Epub 2021 Jun 28.
PMID: 34184822

⑲Kobayashi T, Kessoku T, Ozaki A, Iwaki M, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Saito S, Nakajima A.
Vitamin B6 efficacy in the treatment of nonalcoholic fatty liver disease: an open-label, single-arm, single-center trial.
J Clin Biochem Nutr. 2021 Mar;68(2):181-186. doi: 10.3164/jcbn.20-142. Epub 2021 Jan 16.
PMID: 33879971

⑳Iwaki M, Kessoku T, Ozaki A, Kasai Y, Kobayashi T, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Maeda A, Tanaka Y, Nakajima S, Ohno H, Usuda H, Kawanaka M, Kawaguchi T, Torimura T, Kage M, Hyogo H, Takahashi H, Eguchi Y, Aishima S, Wada K, Kobayashi N, Sumida Y, Saito S, Nakajima A.
Gut microbiota composition associated with hepatic fibrosis in non-obese patients with non-alcoholic fatty liver disease.
J Gastroenterol Hepatol. 2021 Aug;36(8):2275-2284. doi: 10.1111/jgh.15487. Epub 2021 Mar 29.
PMID: 33709477

学会研究会発表

①鈴木雅人、関野雄典、野中敬、松島昭三、小松達司

膵腫瘤に対する EUS-FNA/B の最適な穿刺回数の検討

日本消化器病学会関東支部第 365 回例会　2021 年 7 月 10 日

②山口裕佳、小川祐二、小林　貴、鈴木雅人、野上麻子、本多　靖、山田英司

今城健人、松村舞依、桐越博之、山中正二、中島　淳、松島昭三、藤井誠志、

斎藤　聡、小松達司

腫瘍性病変との鑑別に苦慮した PBC に合併したまだら脂肪肝の一例

日本消化器病学会関東支部第 366 回例会　2021 年 9 月 18 日

③悦田 咲季子, 山田 英司, 池田 佳彦, 山口 裕佳, 上地 大樹, 葛生 健人, 中島 聡美,

鈴木 雅人, 細矢 さやか, 石井 研, 小川 祐二, 野中 敬, 松島 昭三, 小松 達司

繰り返す憩室出血に対して Over The Scope Clip を用いた止血が奏功した 1 例

第 75 回国立病院総合医学会　2021 年 10 月 23 日

④江藤 優真, 小川 祐二, 池田 佳彦, 山口 裕佳, 上地 大樹, 葛生 健人, 中島 聡美,

鈴木 雅人, 細矢 さやか, 石井 研, 山田 英司, 野中 敬, 松島 昭三, 小松 達司

非代償性アルコール性肝硬変を背景に発症した筋肉内血腫の 1 例

第 75 回国立病院総合医学会　2021 年 10 月 23 日

⑤川崎 千瑛, 石井 研, 鈴木 雅人, 池田 佳彦, 山口 裕佳, 上地 大樹, 葛生 健人,

中島 聡美, 細矢 さやか, 山本 悠史, 小川 祐二, 山田英司, 野中 敬, 松島昭三,

関戸 仁, 小松 達司

肝左葉切除術後の閉塞性黄疸に対して後区域枝への EUS-BD を施行した 1 例

第 75 回国立病院総合医学会　2021 年 10 月 23 日

⑥葛生健人、日暮琢磨、中島　淳

COVID-19 の流行が消化器癌の Stage に及ぼした影響の検討

JDDW2021　統合プログラム　（第 63 回日本消化器病学会大会）　2021 年 11 月 5 日

⑦小川　祐二

NAFLD/NASH の診断から治療まで

～ガイドラインからみた治療戦略～

第 308 回横浜藤沢消化器疾患研究会　2021. 11. 8

⑧山口裕佳、小川祐二、小林　貴、野上麻子、本多　靖、山田英司、今城健人、
米田正人、桐越博之、中島　淳、小松達司、斎藤　聡、松島昭三、
経頸静脈的肝生検で診断に至った肝血管肉腫の一例
第 44 回日本肝臓学会西部会　2021 年 12 月 9－10 日

⑨葛生 健人
COVID-19 の流行が消化器癌に及ぼした影響
～診断時の Stage は変化したのか？～
第 309 回横浜藤沢消化器疾患研究会　2022. 3. 14

⑩鈴木雅人、関野雄典、八木伸、岩崎暁人、藤田祐司、細野邦広、中島淳
症候性 Pancreatic pseudo cyst および Walled off necrosis に対する適切なステントの選択－多施設における後方視的検討－
JDDW2021　2021.11.4 -7

⑪鈴木雅人　関野雄典　永瀬肇
ERCP2 時間後の血清膵酵素測定による ERCP 後膵炎発症予防効果の検討
第 101 回　日本消化器内視鏡学会総会 2021 年 5 月 16 日

⑫野崎昭人, 多羅尾和郎, 中馬誠, 沼田和司, 小松弘一, 小松達司, 田中克明, 前田愼
2㎝ 以下の肝細胞癌検出における AFP および PIVKA-II の評価
第 63 回日本消化器病学会大会　2021 年 11 月 4－7 日

⑬多羅尾和郎，野崎昭人, 小松弘一, 小松達司
直径 2㎝ 以下の小肝癌（Barcelona 0 Stage）の拾い上げに現在の単純 MRI はどの程度役立つか？―US との比較検討
第 42 回神奈川ウイルス肝炎セミナー　2021 年 9 月 30 日

⑭多羅尾和郎，野崎昭人，小松弘一，小松達司，田中克明，中馬 誠，沼田和司，
田栗正隆，前田 愼
C 型肝疾患の高齢者からの肝癌拾い上げは MRI で行うことが望ましい
第 53 回神奈川県消化器病医学会総会　2021 年 10 月 30 日

⑮小田　貴之
ペムブロリズマブによる胆管障害に対するステロイド加療の経過を超音波内視鏡にて確認した 1 例　　第 368 回日本消化器病学会関東支部例会　2022 年 2 月 5 日

⑯勝尾　知尋

初期病変の診断に苦慮した肝門部近傍 IPNB の一例

第 368 回日本消化器病学会関東支部例会　2022 年 2 月 5 日

⑰Kento Kuzuu, Tatsuji Komatsu, Takashi Nonaka, Atsushi Nakajima Takuma Higurashi

Effects of the COVID-19 Pandemic on the Gastrointestinal Cancer Stage at Diagnosis in Japan

Asia Pacific Digestive Week 2021.19 -22 August 2021.VIRTUAL APDW2021.

⑱鈴木　雅人

市中病院における臨床研究への取り組み

Yokohama　NEXT　Digestive　Meeting　2021　2021 年 12 月 20 日

⑲葛生 健人

COVID-19 の流行が消化器癌に及ぼした影響～診断時の Stage は変化したのか？～

Yokohama　NEXT　Digestive　Meeting　2021　2021 年 12 月 20 日

⑳山田英司

Authors' Review　便秘症治療満足度におけるブリストル便形状スケールタイプ 3 の位置付け

㉑葛生健人

新型コロナウイルス感染拡大による受診抑制ががんに及ぼした影響について

都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、

神奈川県がん診療連携指定病院及び小児がん拠点病院による意見交換会

2022 年 3 月 22 日

講演

①小川　祐二

特別講演

NAFLD/NASH の診断から治療まで

～ガイドラインからみた糖尿病をふまえた治療戦略～

第 5 回糖尿病エキスパートセミナー　2021 年 7 月 19 日（主催：大正製薬株式会社）

②山田英司

特別講演

慢性便秘診療の実態調査から見えてきたもの

神奈川県内科医学会共催講演会　慢性便秘を考える会　2021 年 6 月 19 日

③小川　祐二

第 2 部特別講演

脂質異常症・糖尿病を踏まえた NASH/NAFLD の治療について

第 27 回　市川糖尿病研究会　2021 年 10 月 18 日（主催：大正製薬株式会社）

④小川　祐二

特別講演

NAFLD/NASH の診断から治療まで

～ガイドラインからみた糖尿病をふまえた治療戦略～

鎌倉市医師会内科医会学術講演会　2021 年 11 月 2 日

（共催：鎌倉市医師会内科医会、鎌倉市医師会、大正製薬株式会社）

ディスカッサー

①小川　祐二

肝細胞癌に対する最適な治療戦略

Yokohama Research Forum on HCC　2021 年 5 月 28 日（主催：中外製薬株式会社）

②小川　祐二

肝細胞癌に対する最適な治療戦略

Yokohama Research Forum on HCC　2022 年 3 月 10 日（主催：中外製薬株式会社）

③小川　祐二

総合ディスカッション

LEN-TACE Academy　2021 年 9 月 16 日　（主催：エーザイ株式会社）

④小川　祐二

CQ ディスカッション

「Lenvatinib と TACE の併用について」

症例提示：「Lenvatinib と TACE 併用について」

LEN-TACE Academy　2022 年 3 月 11 日　（主催：エーザイ株式会社）

座長

①野中　敬

演者　東京医科大学消化器内視鏡学分野　主任教授　河合隆

「GERD 診療を考える～内視鏡専門医が考える検査と薬剤の使い方のコツ～」

消化器疾患トピックス Web 講演会 2021 年 8 月 30 日

②野中　敬

演者　横浜市立大学大学院医学研究科　呼吸器病学　主任教授　金子　猛　先生

「実践で役立つ「咳嗽・喀痰の診療ガイドライン 2019」のポイント」

消化器/呼吸器　Joint Meeting　　2021 年 9 月 8 日

③小川祐二

講演 1　HCC 局所治療について

中外 ZOOM セミナー on HCC　2021 年 10 月 5 日

循環器内科

横浜医療センター循環器内科は、「365 日 24 時間、あらゆる循環器疾患と断らない」を目標に掲げ、心臓血管外科と協力し、24 時間体制で診療にあたっています。昨年は 1700 例以上の入院患者さんの治療を行うことができました。

また当科は、日本循環器内科学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本不整脈学会不整脈専門医研修施設であります。各部門の専門医が複数在籍し、心不全、虚血性心疾患、頻脈性不整脈などすべて高いレベルでの診療が可能です。各専門分野の垣根が低く、フットワークよく治療を行えるのが強みであり特徴です。

原著論文

①Jihaeng Im, Erisa Kawada-Watanabe, Junichi Yamaguchi, Hiroyuki Arashi, Hisao Otsuki, Yuko Matsui, Haruki Sekiguchi, Shinya Fujii, Fumiaki Mori, Hiroshi Ogawa, Nobuhisa Hagiwara

Baseline low-density lipoprotein cholesterol predicts the benefit of adding ezetimibe on statin in statin-naïve acute coronary syndrome.

Scientific Reports　11(1) 7480 2021.4.5

②Ken Kobayashi , Fumiaki Mori

Coronary Artery-Ventricular Pseudoaneurysm Fistula After Myocardial Infarction

JACC. Case reports　　4 (3) 154-155 2022.2.4

③Takashi Saito, Hiroyuki Arashi, Junichi Yamaguchi, Fumiaki Mori, Hiroshi Ogawa, Nobuhisa Hagiwara
Elevated Cystatin-C Levels Are Associated with Iincreased Mortality in Acute Coronary Syndrome Patients;An HIJ-PROPER Sub-Analysis.
Cardiorenal Medicine 12(1) 20-28 2022.2.9

④吉川　将史
A case of successful hemostasis with VIABAHN implantation for a ruptured traumatic aneurysm of the popliteal artery
JCS2022

学会・研究会発表

①森　文章
抗凝固療法を含めた現在の心房細動治療
Pharmacy Web Seminar 2021.4.13

②森　文章
抗凝固療法の up date
横浜市戸塚区病院連携 WEB セミナー 2021.4.21

③齋藤貴士
Cancer-VTE 治療戦略と COVID-19 関連血栓
横浜市戸塚区病院連携 WEB セミナー 2021.4.21

④小林　献
仮性心室瘤を形成し、同部位に冠動脈瘻を認めた急性心筋梗塞の一例
河田町循環器フォーラム～第１２回心臓病研究会～ 2021.5.8

⑤松井　優子
ステント内再狭窄による急性冠症候群を繰り返した６６歳女性に対して積極的に FDG-PET を施行し高安動脈炎の確定診断を得た一例
第 57 回関東甲信越 CVIT 一般演題 2021.5.8

⑥松井　優子
HD grid を用いた高密度マッピングにより左心耳内に限局したリエントリー回路を同定し得た心房頻拍の一例
日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2021 2021.5.11

⑦松井　優子
経皮的肺静脈隔離術により洞調律復帰しドブタミンから離脱できた超低心機能、虚血性心筋症の一例
第 261 回日本循環器学会関東甲信越地方会 2021.9.6

⑧芹川　直輝

僧帽弁閉鎖不全症を伴った心不全に対して経皮的冠動脈形成術が有効であった一例

第 20 回横浜南部循環器カンファレンス　2021. 12. 17

⑨中島　聡良

巨大縦隔腫瘍の進展により心不全を来した一例

第 262 回日本循環器学会関東甲信越地方会　2021. 12. 4

⑩松井　優子

冠動脈ステント内再狭窄を繰り返し、FDG-PET 所見のみで血管炎症候群の診断に至った高齢女性の一例

第 263 回日本循環器学会関東甲信越地方会　2022. 2. 26

⑪吉川　将史

低血圧と高心拍数を有する LVEF の低下した心不全患者に対するイバブラジンの有効性

Efficacy of ivabradine for a patient who had low systolic blood pressure and high heart rates with HFrEF

第 25 回日本心不全学会学術集会　2021.10.2

⑫髙橋　実来

低血圧、高心拍数を有する HFrEF 患者に対しイバブラジンの投与が有効であった一例

第 262 回日本循環器学会関東甲信越地方会　2021. 12. 4

⑬坂井　政之

冠動脈ステント留置直後の血栓症に対し治療に難渋した一例

第 58 回 CVIT 関東甲信越地方会　2021.10.16

⑭吉川　将史

A case of successful hemostasis with VIABAHN implantation for a ruptured traumatic aneurysm of the popliteal artery

第 86 回日本循環器学会地方会 2022.3.11-3.15

⑮吉川　将史

ARNI をどう活かすか？症例提示

ARNI　Summi　2021.5.20

⑯齋藤　貴士

～心拍管理が慢性心不全治療にもたらしたインパクト～

急性期離脱後の慢性心不全に対するイバブラジンの有効性と安全性

イバブラジン　オンラインフォーラム　2021　2021.7.2

⑰松井　優子

経皮的肺静脈隔離術により洞調律復帰しドブタミンから離脱できた超低心機能、虚血性心筋症の一例」

心不全診療地域連携 online 講演会　2021.7.13

⑱塚本　圭

当院におけるサムスカ使用経験からの考察

心不全病診連携の会　2021.8.20

⑲吉川　将史

Session2 症例提示

ARNI　Web Live Symposium 2021.9.1

⑳松井　優子

症例提示 3

CRM　Academy follow-up　2021.9.1

㉑吉川　将史

Session2　ショートレクチャー&ディスカッション

ARNI　Summit～発売 1 周年記念～　2021.9.7

㉒松井　優子

Case1

T-WINC～Tokyo Women's intervene　2021.9.28

㉓塚本　圭

当院におけるトルバプタンの使用経験からの考察

Tolvaptan Meeting　2021.9.28

㉔齋藤　貴士

当院における ARNI の使用経験

戸塚区エンレスト錠 1 周年記念 WEB 講演会　2021.10.7

㉕齋藤　貴士

腸骨動脈領域における EVT について

第 348 回戸塚区・泉区循環器病研究会　2022.1.14

㉖塚本　圭

当院における心不全治療の現状と取り組み

心腎貧血症候群治療 Strategy Web Seminar　2022.2.1

㉗齋藤　貴士

循環器疾患患者における脳卒中について

横浜南西部　PSC　WEB　Seminar　2022.2.8

㉘塚本　圭

心不全の新規治療

第 349 回戸塚区・泉区循環器病研究会　2022. 3. 11

㉙塚本　圭

高血圧から心不全へのシームレスな治療戦略

高血圧　Forum　in 戸塚　2022.3.23

座長など

①森　文章

横浜南西部　PSC　Web　Seminar　2021.5.8

②森　文章

日本における心不全治療の新たな展開　Before ARNI vs With ARNI

ショートレクチャー&ディスカッション　2021. 6. 3

③森　文章

心不全地域連携 WEB 講演会　特別講演①　2021. 6. 7

④森　文章

心不全診療地域連携 online 講演会

テーマ「心不全診療　新薬導入について考える」　2021. 7. 13

⑤森　文章

DKD　Seminar　講演I　2021.7.26

⑥森　文章

CRYO　WEB　DISCUSSION　2021.8.4

⑦森　文章

Tolvaptan Meeting　2021.9.28

⑧森　文章

戸塚区エンレスト錠 1 周年記念 WEB 講演会「心不全治療の最前線」　2021. 10. 7

⑨森　文章

湘南横浜循環器 WEB カンファレンス　特別講演　2021. 10. 20

⑩森　文章

Diabetes Web Conference　2021.11.29

⑪森　文章

高血圧診療を考える会　講演２　2021. 12. 21

⑫森　文章

循環器疾患医療連携セミナー　プログラム１　2022. 2. 2

⑬森　文章

Cardiovascular&sleep for the day　講演Ⅰ　2022. 2. 24

パネリスト、ディスカッサント、コメンテーターなど

①松井　優子

パネリスト

Advancing Patinent Management~Rething Rate Response of Cardiac PaceMaker~

BIOTRONIK　2021.5.6

②吉川　将史

ディスカッサント

ARNI　Summi　2021.5.20

③吉川　将史

Discussion パネリスト

Heart Failure Symposium in 横浜西部　2021. 7. 6

④齋藤　貴士

パネリスト

テーマ「心不全診療　新薬導入について考える」

心不全診療地域連携 online 講演会　2021.7.13

⑤齋藤　貴士

コメンテーター

CRYO　WEB　DISCUSSION　2021.8.4

⑥松井　優子

コメンテーター

CRYO　WEB　DISCUSSION　2021.8.4

⑦前田　遼造

コメンテーター

クライオバルーンアブレーションにおける持続性心房細動への症例共有を含めた講演会

CRYSTAL　in Yokohama　2021.9.2

⑧齋藤　貴士

コメンテーター

CLTI に対する治療方針と病診連携の取り組み

足病診療を連携で考える　2022. 2. 15

⑨坂井　政之

パネリスト

~ICD の設定とトラブルシューティング～

第２回 BIOTRONIK　Educattion Seminar　2022.2.24

⑩齋藤　貴士

コメンテーター

石灰化病変の最適な治療を考える会　2022. 3. 7

その他

①森　文章

閉会の辞

第１回横浜南部心臓リハビリテーション連携の会　2021. 6. 23

②齋藤　貴士

開会の辞

湘南横浜循環器 WEB カンファレンス　2021. 10. 20

③取材

Voice　of　Vision 心不全治療における再入院の予防のために横浜医療センターセルフモニタリングによる患者さん主導型の心不全治療に取り組む

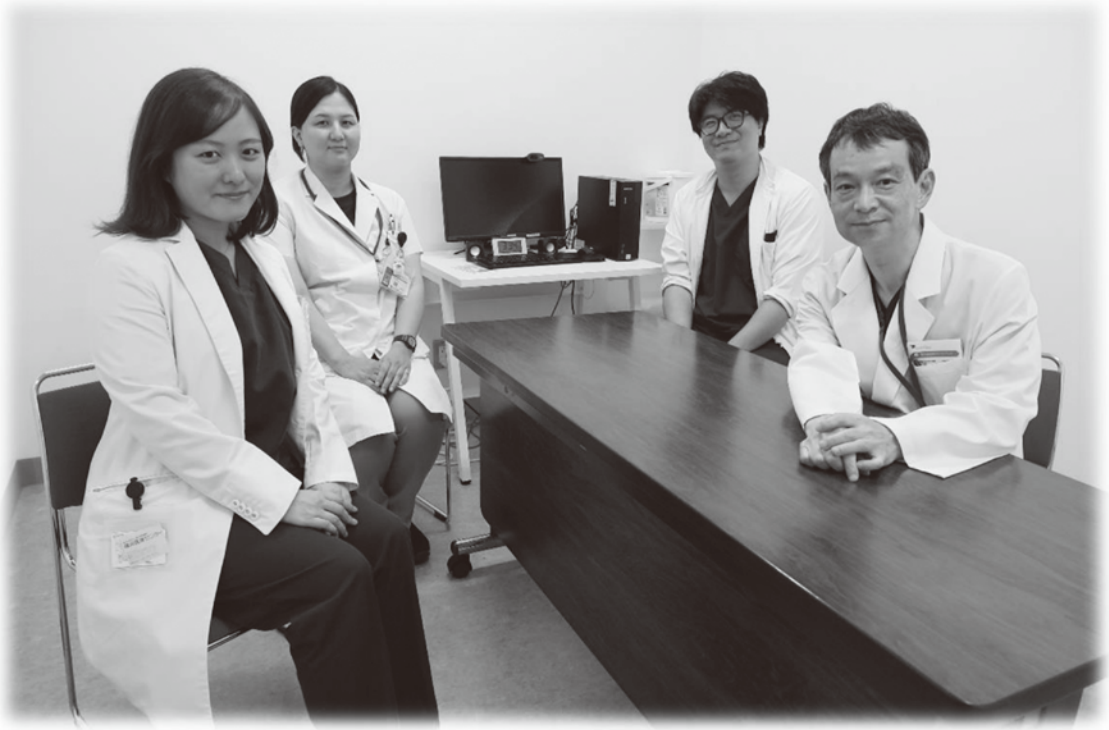
2021. 11. 11

腎臓内科

腎臓内科は現在 3 名体制です。横浜市立大学腎臓高血圧内科教室から派遣されています。当科の診療内容は、腎炎・ネフローゼ症候群の診断・治療、高血圧、CKD の教育入院、常染色体優性遺伝多発性嚢胞腎(ADPKD)治療、血液透析・腹膜透析導入、急性腎障害などです。年間透析導入患者数は 30 名前後、腎生検数は 15 名前後です。

また日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本高血圧学会認定施設に指定されています。

写真　後方左　当科 MA、その他医師常勤医



原著・論文

なし

学会・研究会発表

なし

小児科

横浜市南部地域随一の総合病院小児科として、近隣クリニックとの連携を重視し、かかりつけ医とともに地域の子どもたちの健康を守る小児医療体制を構築しています。

14 名の常勤医による無理なく持続可能な 365 日 24 時間診療体制を敷いており、横浜市小児救急拠点病院の一つとしての小児救急医療、産婦人科との良好な関係をもとにした充実した周産期医療（NICU）、多くの専門医に裏打ちされたアレルギー診療の 3 本柱を中心に、他にも循環器、神経、腎臓、内分泌など各専門外来も設置して様々なニーズに対応しています。

近隣クリニックからの紹介、救急車は何があっても引き受けることを徹底しています。地域の皆様に「横浜医療センターなら安心して子どもを任せられる」と言っていただける小児科を目標にこれからも努力を続けていきます。

＊横浜医療センター小児科で進行中の臨床研究

- Nemolizumab の小児アトピー性皮膚炎患者に対する第III相試験（治験）
- 救急医療機関におけるアナフィラキシー患者の実態調査
- 低年齢の通年性アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法のランダム化比較試験による有効性の検討
- VitD による乳幼児 RS ウイルス感染症後の反復性喘鳴抑制効果のランダム化比較試験
- 栄養摂取と湿疹が食物アレルギー感作に関する出生コホート研究
- 反復喘鳴を呈した 1 歳児の喘息発症予測フェノタイプに関する研究
- 稀少アレルゲンによるアナフィラキシーの実態解明と診断法確立に関する研究
- 重症鶏卵アレルギーに対する経皮免疫療法の有効性と安全性に関する研究
- 乳幼児のバイタルサインを計測できるウェラブルセンサの医療現場への実用化
- 新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児の実態把握のための探索的観察研究
- 低出生体重児の成長・発達評価手法の確立のための研究 ①低出生体重児の乳幼児期の発育調査
- 認定 NPO 法人新生児臨床研究ネットワーク「周産期母子医療センターネットワークデータベース」事業への参加
- 冠動脈瘤をともなう川崎病患者のレジストリ研究
- 学校心臓検診ガイドラインにおける心電図検査所見の抽出基準の検討

論文、総説

Akiyama N, Ochiai R, Hokosaki T, Nitta M, Nakano Y, Watanabe S, Nakashima R, Enomoto J, Watabe S:
Objective and Personalized Assessment of Disease-Related Knowledge Among Patients with Congenital Heart Disease - Development and Validation of the Japanese Version of the Leuven Knowledge Questionnaire for Congenital Heart Disease.
Circ Rep, 3(10): 604-14, 2021.

Miyamoto M, Yoshihara S, Shioya H, Tadaki H, Imamura T, Enseki M, Koike H, Furuya H, Mochizuki H:
Lung sound analysis in infants with risk factors for asthma development.
Health Sci Rep, 4(3): e378, 2021.

Nitta M, Ochiai R, Nakano S, Nakashima R, Matsumoto K, Sugano T, Ishigami T, Ishikawa T, Tamura K, Nakano Y, Watanabe S, Hokosaki T, Machida D, Masuda M, Kimura K:
Characteristics of patients with adult congenital heart disease treated by non-specialized doctors: The potential loss of follow-up.
J Cardiol, 77(1): 17-22, 2021.

Yamamoto M, Nagashima S, Yamada Y, Murakoshi T, Shimoyama Y, Takahashi S, Seki H, Kobayashi T, Hara Y, Tadaki H, Ishimura N, Ishihara S, Kinoshita Y, Morita H, Ohya Y, Saito H, Matsumoto K, Nomura I:
Comparison of Nonesophageal Eosinophilic Gastrointestinal Disorders with Eosinophilic Esophagitis: A Nationwide Survey.
J Allergy Clin Immunol Pract. 9(9):3339-49, 2021.

Yoshinaga M, Horigome H, Ayusawa M, Yasuda K, Kogaki S, Doi S, Tateno S, Ohta K, Hokosaki T, Nishihara E, Iwamoto M, Sumitomo N, Ushinohama H, Izumida N, Tauchi N, Kato Y, Kato T, Chisaka T, Higaki T, Yoneyama T, Abe K, Nozaki Y, Komori A, Kawai S, Ninomiya Y, Tanaka Y, Nuruki N, Sonoda M, Ueno K, Hazeki D, Nomura Y, Sato S, Hirono K, Hosokawa S, Takechi F, Ishikawa Y, Hata T, Ichida F, Ohno S, Makita N, Horie M, Matsushima S, Tsutsui H, Ogata H, Takahashi H, Nagashima M:
Electrocardiographic Diagnosis of Hypertrophic Cardiomyopathy in the Pre- and Post-Diagnostic Phases in Children and Adolescents.
Circ J, 86(1): 118-27, 2021.

伊波勇輝, 矢内貴憲, 鏑木陽一:
家族内感染で COVID-19 を発症した 2 か月児の一例.
小児感染免疫, 33(2): 121-6, 2021.

遠藤美央, 田中崇人, 大砂光正, 小林孝輔, 守矢晶子, 松本俊, 柏崎佑輔, 佐々木康二, 田中晶, 安藤枝里子, 磯崎淳:
急性化膿性甲状腺炎を発症し, 梨状窩瘻を診断した 1 例.
小児科, 62(12): 1574-7, 2021.

加藤愛美, 二町尚樹, 林邉廉, 高崎智彦, 清水博之:
胸水貯留を伴ったデング熱の小児例.
小児感染免疫, 33(1): 51-7, 2021.

高橋篤史, 波多野道弘, 岩本眞理:
食物経口負荷試験で非典型的な皮膚症状を呈した食物蛋白誘発胃腸炎.
横浜医学, 72(4): 531-5, 2021.

著書
なし

学会・研究会発表
小原真奈, 高橋英里佳, 福山綾子, 勝又薫:
一児のみに左肺欠損を認めた一絨毛膜一羊膜性双胎の 1 例.
第 65 回日本新生児成育医学会, 札幌, 2021, 5, 7.

安藤枝里子, 磯崎淳, 田中晶, 柏崎佑輔, 遠藤美央, 小林孝輔, 守矢晶子, 中村陽一:
1 年半の間に気管支喘息急性増悪による入院を 8 回繰り返した男児へのオマリズマブの導入.
第 37 回日本小児臨床アレルギー学会, 東京, 2021, 5, 1.

伊波勇輝, 本井宏尚, 尾高真生, 山本亜矢子, 大山宜孝, 渡辺好宏, 武下草生:
BCG 接種後に発症した West 症候群に対してイソニアジドを併用して ACTH 療法を行った 2 例.
第 63 回日本小児神経学会学術集会, 福岡, 2021, 5, 27.

菅谷憲太, 中野裕介, 黒田浩行, 渡辺重朗, 鉾碕竜範, 町田大輔, 益田宗孝, 伊藤秀一:
ショックを呈した肺動脈内隔壁作成術および Blalock-Taussig shunt 術後 Seroma の一例.
第 94 回日本超音波医学会, 神戸, 2021, 5, 21.

本井宏尚, 伊波勇輝, 尾高真生, 大山宜孝, 渡辺好宏:
レベチラセタム投与による精神症状が遷延した 15 歳のてんかん症例.
第 63 回日本小児神経学会学術集会, 福岡, 2021, 5, 27.

加藤愛美, 石丸愛, 白井綾乃, 鈴木裕二, 伊波勇輝, 高橋英里佳, 矢内貴憲, 本井宏尚, 塩谷裕美, 原良紀, 只木弘美, 福山綾子, 鏑木陽一:
繰り返す腰背部痛を主訴に受診した処女膜閉鎖症の 11 歳女児例.
第 365 回日本小児科学会神奈川県地方会, 横浜, 2021, 6, 19.

秋山直美, 落合亮太, 鉾碕竜範, 仁田学, 中野裕介, 渡辺重朗, 中島理恵, 榎本淳子, 渡部節子:
移行期・成人期にある先天性心疾患患者の疾患に関する知識とその関連要因.
第 57 回日本小児循環器学会, 奈良, 2021, 7, 9.

塩谷裕美:
肺音解析を用いた気管支喘息児の客観的評価.
横浜小児先進医療セミナー, 横浜, 2021, 7, 16.

只木弘美:
小児アトピー性皮膚炎における診療の取り組み.
神奈川県皮膚科医会, 横浜, 2021, 7, 4.

鏑木陽一:
小児 Covid-19 患者受け入れの実際.
南西部小児疾患研究会, 横浜, 2021, 10, 12.

只木弘美:
小児アトピー性皮膚炎の診断と治療.
戸塚区薬剤師会研修会, 横浜, 2021, 10, 5.

本村知華子, 柳田紀之, 市丸邦博, 敦賀和志, 荒武真司, 藤原倫昌, 長尾みづほ, 只木弘美, 二村昌樹:
COVID-19 関連・その他　小児アレルギーチーム活動における病院間ネットワーク、食物経口負荷試験オンライン研修.
第 70 回日本アレルギー学会, 横浜, 2021, 10, 8.

泉田直己, 岩本真理, 田内宣生, 鮎沢衛, 住友直方, 牛ノ濱大也, 堀米仁志, 鉾碕竜範, 加藤太一, 加藤愛章, 檜垣高史, 阿部勝巳, 米山達哉, 吉永正夫, 長嶋正實:
二相性所見を考慮した V1 誘導 T 波極性の年齢による変化.
第 25 回日本小児心電学会, 新潟, 2021, 11, 26.

小山裕太郎, 三浦大, 江畑亮太, 深澤隆治, 古野憲司, 布施茂登, 鉾碕竜範, 小林徹, 沼野藤人, 塩野淳子, 菅沼栄介:
冠動脈瘤を伴う川崎病患者のレジストリ研究(KIDCAR).
第 41 回日本川崎病学会, 東京, 2021, 11, 20.

白井綾乃, 野原千広, 平井夏世, 加藤愛美, 小林孝輔, 高橋篤史, 伊波勇輝, 高橋英里佳, 塩谷裕美, 原良紀, 只木弘美, 鉾碕竜範, 福山綾子, 鏑木陽一:
痂疲 PCR 検査により確定診断し得たツツガムシ病の 1 例.
第 367 回日本小児科学会神奈川県地方会, 横浜, 2021, 11, 20.

中山彰, 石津博子, 只木弘美:
メチルプレドニゾロン投与後にアレルギー症状を呈した急性散在性脳脊髄炎の 1 例.
第 58 回日本小児アレルギー学会, 横浜, 2021, 11, 13.

鉾碕竜範, 河合駿, 若宮卓也, 中野裕介, 渡辺重朗, 岩本眞理:
学校検診における心房中隔欠損症の新しい抽出基準の成果.
第 25 回日本小児心電学会, 新潟, 2021, 11, 26.

守矢晶子, 只木弘美, 早野聡子, 村田宗紀, 小堀大河, 江原貴子, 吉原重美:
Pru p7 に感作を認めたバラ科果物および柑橘類による食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 3 症例.
第 58 回日本小児アレルギー学会, 横浜, 2021, 11, 13.

加藤真理子, 喜瀬広亮, 藤井隆成, 神谷太郎, 鉾碕竜範, 中野裕介, 山岡大志郎, 石井瑤子, 長岡孝太, 堀川結衣, 堀尾直裕, 清水武, 大山伸雄, 佐野俊和, 宮原義典, 富田英:
ヨード造影剤アレルギーが疑われガドリニウム造影剤により塞栓術を施行した冠動脈瘻の 1 例.
第 32 回日本先天性心疾患インターベンション学会, 倉敷, 2022, 1, 20.

中野裕介, 菅谷憲太, 志水利之, 川田愛子, 河合駿, 若宮卓也, 中野裕介, 渡辺重朗, 鉾碕竜範, 上田秀明:
上大静脈閉塞に対する Palmaz large stent 留置時に Stent edge injury を来した 1 例.
第 32 回日本先天性心疾患インターベンション学会, 倉敷, 2022, 1, 20.

野原千広, 平井夏世, 松澤崇, 加藤愛美, 小林孝輔, 高橋篤史, 伊波勇輝, 高橋英里佳, 塩谷裕美, 原良紀, 只木弘美, 鉾碕竜範, 福山綾子, 鏑木陽一, 池田佳彦, 上地大樹, 細矢さやか, 山田英司, 野中敬, 松島昭三, 小松達司:
三度におよぶ内視鏡操作により摘出に成功した毛髪胃石症の一例.
第 368 回日本小児科学会神奈川県地方会, 横浜, 2022, 2, 19.

平井夏世, 鉾碕竜範, 野原千広, 松澤崇, 加藤愛美, 小林孝輔, 高橋篤史, 伊波勇輝, 高橋英里佳, 塩谷裕美, 原良紀, 只木弘美, 福山綾子, 鏑木陽一, 堀井伸利, 木村準, 長嶋洋治.
虫垂炎症状が先行した川崎病症例.
第 17 回神奈川県川崎病研究会, 横浜, 2022, 2, 5.

平井夏世, 原良紀, 野原千広, 松澤崇, 加藤愛美, 小林孝輔, 高橋篤史, 伊波勇輝, 高橋英里佳, 塩谷裕美, 只木弘美, 鉾碕竜範, 福山綾子, 鏑木陽一:
下肢超音波検査が診断の契機となった壊血病の 1 例.
第 369 回日本小児科学会神奈川県地方会, 横浜, 2022, 3, 12.

市民講座：

只木弘美:
食物アレルギーの最新の知識.
第 37 回日本小児臨床アレルギー学会市民講座, 2021, 4, 5. （WEB 配信）

研究助成金：

只木弘美（分担）：稀少アレルゲンによるアナフィラキシーの実態解明と診断法確立に関する研究(H31-NHO(小産)-02). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

只木弘美, 小林孝輔（分担）：乳児期における栄養摂取と湿疹がアレルギー感作に及ぼす影響に関する出生コホート研究(H26-NHO(免疫)-01). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

只木弘美（分担）：反復喘鳴を呈した 1 歳児喘息発症予測スコア作成に関する研究(H29-NHO(免疫)-03). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

只木弘美（分担）：低年齢の通年性アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法のランダム化比較による有効性の検討(H31-NHO(免疫)-34). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

只木弘美, 塩谷裕美（分担）: Vitamin D による乳児 RS ウイルス感染症後の反復性喘鳴抑制効果の多施設ランダム化 比較試験による検証(R2-NHO(感染)-01). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

只木弘美（分担）：早期新生児期の鶏卵摂取による即時型鶏卵アレルギーの発症予防効果のランダム化比較試験による検証(H29-NHO(成育)-02). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

只木弘美（分担）：気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究「肺音解析を用いた乳幼児の喘息診断の研究」. 環境再生保全機構委託業務.

只木弘美（分担）：救急医療機関におけるアナフィラキシー患者の実態調査. マイラン EPD 合同会社受託研究.

塩谷裕美（分担）：気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究「肺音解析を用いた乳幼児の喘息診断の研究」 環境再生保全機構委託業務.

小林孝輔（分担）：反復喘鳴を呈した 1 歳児の喘息発症予測フェノタイプに関する研究 (H29-NHO(免疫)-03). 国立病院機構 NHO ネットワーク研究.

福山綾子（分担）：乳幼児のバイタルサインを計測できるウェラブルセンサの医療現場への実用化. 戦略的情報通信研究開発推進事業.

産婦人科

地域周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦を受け入れています。分娩件数は、出生数減少に伴い当院でも 2016 年度 917 件をピークに減少、2021 年には再増加し現在は約 600 件/年です。女性ヘルスケア分野でも複数の専門医を配置し、更年期障害・卵巣機能不全の外来管理を継続しています。2022 年度には新部長（婦人科腫瘍専門医、大学院がんプロフェッショナル養成プラン修了）体制となり、内視鏡手術や悪性腫瘍手術の増加が見込まれます。

産科、婦人科ともに他科連携によるスムーズな診療を心がけています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

原著論文

①Iwata A, Kurasawa K, Kubota K, Sugo Y, Odagami M, Aoki S, Okuda M, Yamanaka T, Miyagi E

Factors predicting rubella vaccination among pregnant women in Japan: An interim report from the Pregnant Women Health Initiative

Japanese Journal of Infectious Diseases 74(4) 337-343 2021.7

②Hagiwara M, Nakanishi S, Shindo R, Obata S, Miyagi E, Aoki S.

An extremely prolonged second stage of labor increases maternal complications but has no adverse effect on neonatal outcomes.

J Obstet Gynaecol Res. 2022 Mar 13. doi: 10.1111/jog.15212. Epub ahead of print. PMID: 35285119.

③湯本亜美，向田一憲，楚南侑子，下向麻由，榊　知子，若林玲南，奥田美加

膀胱癌合併妊娠の 2 症例

神奈川産科婦人科学会誌 58(1) 39-44 2021.9.30

④奥田美加

風疹、麻疹、水痘にかかったことがあるかと聞かれましたが、自分でもよく覚えていません．そうすればよいですか？

臨床婦人科産科 75(4) 127-128 2021.4.20

⑤奥田美加

風疹

周産期医学 51 増刊 122-123 2021.12.27

⑥小林奈津子，大井由佳，田中　舞，鈴木　絢，宮本麻美，北島麻衣子，峰　優子，

笠井絢子，茶木　修，中山昌樹：

骨髄異形成症候群に合併した子宮頸癌に対し腹腔鏡下広汎子宮全摘術を施行した一例．関東連合産科婦人科学会誌，**58**(4)：482-488，2021.11 ISSN：2186-0629

⑦萩原真由美，松永竜也，紙谷菜津子，祐森明日菜，鈴木幸雄，今井雄一，水島大一，

ルイズ横田奈朋，山本紘司，宮城悦子：

婦人科悪性腫瘍に合併した Trousseau 症候群の予後に関する検討．

日本婦人科腫瘍学会雑誌，**39**(2)：528-534，2021.4　ISSN：1347-8559

⑧木野民奈，丸山康世，中川沙綾子，山本賢史，中島文香，小河原由貴，平吹知雄，

宮城悦子

当院における妊産婦の風疹抗体保有率と産後の風疹ワクチン接種状況．

日本周産期・新生児医学会雑誌，**57**(2)：309-314，2021.9　ISSN:2435-4996

⑨池内満里奈，大井由佳，真鍋静恵，橋本彩紗，北島麻衣子，小林奈津子，瀬川恵子，

笠井絢子，茶木　修，松永竜也

巨大子宮筋腫により妊娠子宮捻転をきたし、後壁の前置胎盤を前壁付着と判断していた

一例.

関東連合産科婦人科学会誌，58(4)：565-569，2021.11　ISSN：2186-0629

学会・研究会発表

①内山亜弥，渡邊希望，魚本真理，柳澤芙弥，萩原真由美，楚南侑子，中島文香，小林奈津子，下向麻由，向田一憲，奥田美加

虚血性変化を認めるも卵巣温存し得た小児広汎性卵巣浮腫の茎捻転の 1 例

第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会（WEB 開催） 2021.9.11

②梶山くるみ，奥田美加，渡邊希望，魚本真理，萩原真由美，楚南侑子，中島文香，小林奈津子，下向麻由，内山亜弥，向田一憲

子宮内避妊用具 FD-1 を挿入した状態で妊娠し、正常経腟分娩に至った 1 例

第 434 回神奈川産科婦人科学会学術講演会（WEB 開催） 2021.10

③長田拓也，内山亜弥，渡邊希望，魚本真理，萩原真由美，楚南侑子，中島文香，小林奈津子，下向麻由，向田一憲，奥田美加

副胎盤に常位胎盤早期剥離を来した 1 例

第 75 回国立病院総合医学会（WEB 開催） 2021.10.23

④飯島崇善，中島文香，下向麻由，内山亜弥，向田一憲，奥田美加

満期経腟分娩に至った Herlyn-Werner-Wunderlich 症候群合併妊娠の 1 例.

第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会，宮崎・WEB，2021.7.11

⑤柳澤芙弥，向田一憲，渕向なつみ，飯島崇善，太田侑子，中島文香，下向麻由，内山亜弥，高山智子，奥田美加

帝王切開術後に癒着防止吸収性バリアに起因すると思われる化学性腹膜炎を発症した 1 例.

第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会，新潟・WEB，2021.4.22

⑥萩原真由美，中西沙由理，志村茉衣，進藤亮輔，田吹　梢，小田上瑞葉，小畑聡一朗，

栃尾　梓，葛西　路，青木　茂，宮城悦子

分娩 2 期超長時間遷延の母児に与える影響.

第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会，新潟・WEB，2021.4.

⑦川島侑希子，佐治晴哉，片山佳代，持丸　綾，内田絵梨，有野祐子，中島文香，宮本麻美，堀内順子

帝王切開瘢痕部妊娠流産後に大量性器出血をきたし子宮摘出に至った一例.

第 141 回関東連合産科婦人科学会学術集会（WEB 開催），2021.7.

⑧池内満里奈，大井由佳，眞鍋静恵，橋本彩紗，北島麻衣子，小林奈津子，瀬川恵子，

笠井絢子，茶木　修，松永竜也

巨大子宮筋腫により妊娠子宮捻転をきたし、後壁の前置胎盤を前壁付着と判断していた一例.

第 141 回関東連合産科婦人科学会学術集会（WEB 開催），2021.7.

講演

①奥田美加

WEB 特別講演　3 つの観点から紐解く　風しんの追加的対策について.

主催：アボットジャパン合同会社，2021.04.01 配信.

②奥田美加

産婦人科領域の貧血．神奈川県保険医協会第 601 回月例研究会

横浜市（WEB 講演），2022.2.17.

放射線科　治療

放射線治療の対象は主として悪性腫瘍ですが、甲状腺眼症等の良性疾患も対象としています。スタッフは放射線治療専門医（常勤1名、非常勤1名）、放射線技師2名（1名は医学放射線物理士資格保有）、専従看護師1名です。治療装置はVarian社製リニアック（直線加速器）1台を使用し、年間約5,000件を施行し、外来通院治療が近年の傾向で80%以上を占めています。最善かつ安全で経済的な放射線治療を、個々人の状況に応じて丁寧に提供したいと考えています。

業績　なし

放射線科　診断

学会・研究会発表

①椎名丈城

胃異所性膵の慢性膵炎に併発した急性膵炎の1例

第376回小田急X線カンファレンス　2021.4.1

②椎名丈城

脈絡叢転移の2例

第377回小田急X線カンファレンス　2021.5.6

③中島聡良

好酸球性心筋炎

第378回小田急X線カンファレンス　2021.6.3

④日紫喜裕子

gossipyboma の 1 例

第 379 回小田急X線カンファレンス　2021. 7. 1

⑤柳澤芙美

心外膜脂肪壊死の 1 例

第 380 回小田急X線カンファレンス　2021. 9. 2

⑥飯澤勇太

ブロム中毒の 2 例

第 381 回小田急X線カンファレンス　2021. 10. 7

⑦椎名丈城

COVID-19 肺炎ワクチン後の急性好酸球性肺炎

第 382 回小田急X線カンファレンス　2021. 11. 4

⑧椎名丈城

ランタン製剤の胃壁沈着

第 382 回小田急X線カンファレンス　2021. 11. 4

⑨梶山くるみ

劇症性紫斑病

第 383 回小田急X線カンファレンス　2021. 12. 2

⑩椎名丈城

星状神経節ブロック後の咽頭後・縦隔血腫の 1 例

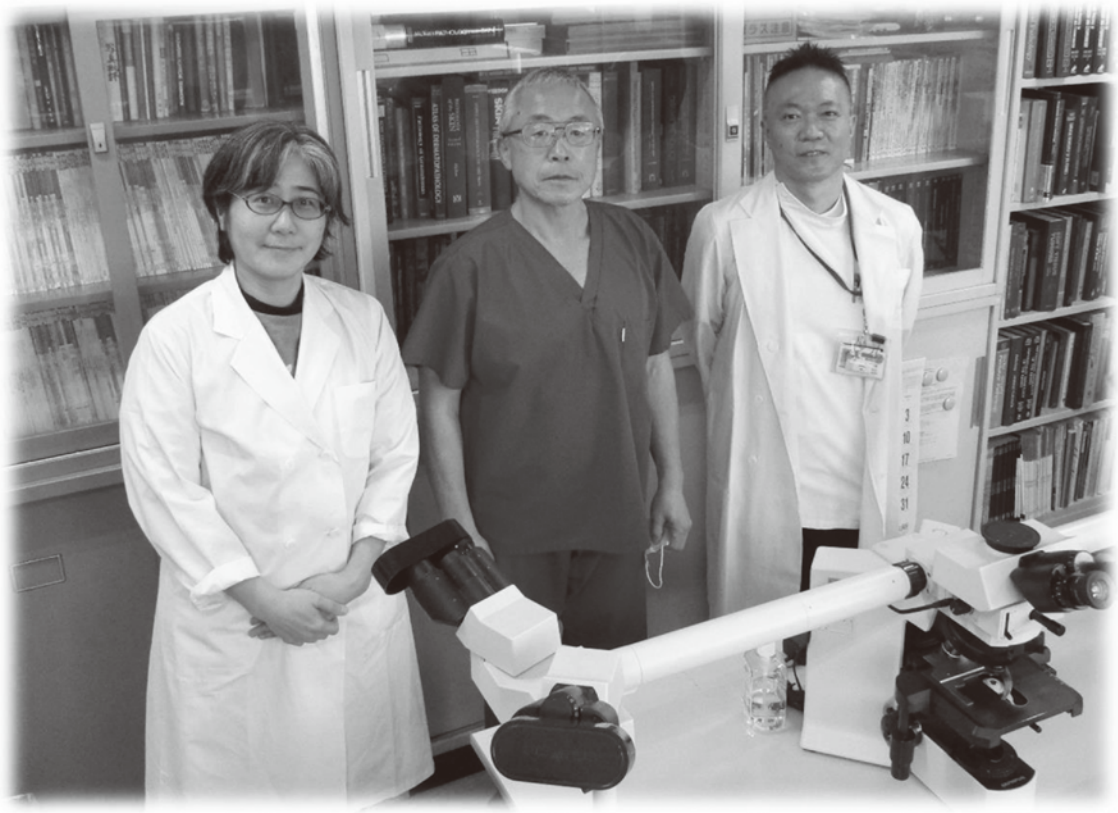
第 384 回小田急X線カンファレンス　2022. 2. 3

⑪椎名丈城

GFAP アストロサイトパチーの 1 例

第 385 回小田急X線カンファレンス　2022. 3. 3

臨床検査科（医師）



原著・論文

①Satoshi Komiyama , Kazushi Numata , Katsuaki Ogushi , Makoto Chuma, Reiko Tanaka, Sawako Chiba, Masako Otani, Yoshiaki Inayama, Masayuki Nakano and Shin Maeda
Liver Injury and Use of Contrast-Enhanced Ultrasound for Evaluating Intrahepatic Recurrence in a Case of TACE-Refractory Hepatocellular Carcinoma Receiving
Atezolizumab-Bevacizumab Combination Therapy: ACase Report
Diagnostics 2021, 11(8), 1394. https://doi.org/10.3390/diagnostics11081394

NHO ネットワーク共同研究

①新野　史、メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究
②新野　史、メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析

救急科

救急総合診療科では救急専門医を中心とした医師が救急搬送患者の診療だけでなく、隣接する他地域の中核病院から紹介された重症患入院患者に対して集学的治療を行える体制をとっています。また横浜市のドクターカーに参画し、「出かけていく医療」にも力を入れています。救急医、救急看護師、救急救命士が病院救急車で救急現場や地域の医療機関・在宅診療の救急現場へ駆けつけることで早期診療を可能としています。救命救急センターというと“救命処置”の印象が強いですが、当院では多疾患併存(Multimorbidity)診療に対して、クリティカルシンキングを身につけられるよう、日々の濃厚なカンファレンスを行っています。当院での治療により安定した患者については、地域内の医療機関に継続治療を依頼し連携体制の構築を図ることで、各病院の相互機能を最大に生かした地域医療完結型の救急・集中医療を提供しています。

原著・論文

①Saji R, Nishii M, Sakai K, Miyakawa K, Yamaoka Y, Ban T, Abe T, Ohyama Y, Nakajima K, Hiromi T, Matsumura R, Suzuki N, Taniguchi H, Otsuka T, Oi Y, Ogawa F, Uchiyama M, Takahashi K, Iwashita M, Kimura Y, Fujii S, Furuya R, Tamura T, Ryo A, Takeuchi I.
Combining IL-6 and SARS-CoV-2 RNAaemia-based risk stratification for fatal outcomes of COVID-19
PLoS one　16(8) e0256022　2021.8

②Okano H, Furuya R, Mishima S, Shimada K, Umeda S, Michishita T, Minami S, Suzuki N, Hayakawa S, Otsuka T, Miyazaki H
DUAL-energy computed tomography findings in a case of COVID-19.
Acute Medicine & Surgery 8(1) e677　2021.6

③Okano H, Mayumi T, Kataoka Y, Banno M, Tsujimoto Y, Shiroshita A, Taito S, Tokumine J.
Outcomes of Simulation-Based Education for Vascular Access: A Systematic Review and Meta-Analysis.
Cureus 13(8) e17188　2021.8

④Sakuraya M, Okano H, Masuyama T, Kimata S, Hokari S.
Efficacy of non-invasive and invasive respiratory management strategies in adult patients with acute hypoxaemic respiratory failure: a systematic review and network meta-analysis.
Critical Care 25(1) 414　2021.11

⑤Utada S, Okano H, Miyazaki H, Niida S, Horiuchi H, Suzuki N, Otsuka T, Furuya R.
Awake intubation with videolaryngoscopy and fiberoptic bronchoscope.
Clinical Case Reports 10(1) e05274　2022.1

⑥Yamakawa K, Yamamoto R, Terayama T, Hashimoto H, Ishihara T, Ishimaru G, Imura H, Okano H, Narita C, Mayumi T, Yasuda H, Yamada K, Yamada H, Kawasaki T,Shime N, Doi K, Egi M, Ogura H, Aihara M, Kushimoto S, Nishida O,Special Committee of the Japanese Clinical Practice Guidelines for the Management of S, Septic Shock tC-TF
Japanese rapid/living recommendations on drug management for COVID-19: updated guidelines (September 2021)
Acute Medicine & Surgery 8(1) e706　2021.11

⑦Minami S, Suzuki N, Okano H, Mishima S, Shimada K, Umeda S, Michishita T, Hayakawa S, Otsuka T, Miyazaki H, Furuya R
Two cases of post-traumatic inferior vena cava thrombosis
Acute Medicine & Surgery 8(1) e691　2021.9

⑧Yasuda H, Mayumi T, Okano H
Efficacy of different anticoagulant doses for patients with COVID-19: a systematic review and network meta-analysis
Infection　2022.3

⑨古谷良輔・佐藤公亮、大塚剛

転送にあたっての患者状態の評価

今を乗り切る救命の考え方＆　テクニック　9〜28　2022.2.20

⑩古谷良輔

医師の立場から見た東京オリンピック・パラリンピック

横浜市医師会報 952　7-13　2022.2.20

⑪古谷良輔

新型コロナウイルスの対応と医師の働き方改革の両立について

神奈川県医師会勤務医部会報 22　42-43　2022.3.1

⑫大塚剛

救急・ICU で使う ME 機器　　集中治療室で行う腎不全の治療-CHDF(持続的血液濾過透析)-

Emer Log 2021 秋季増刊　116-120　2021.9.19

⑬鈴木誠也

救急・ICU で使う ME 機器　　人工呼吸器の ABC

Emer Log 2021 秋季増刊　177-181　2021.9.19

⑭吉田敦

救急・ICU で使う ME 機器　　質の高い CPR の指標として活用するカプノモニター"

Emer Log 2021 秋季増刊　111-115　2021.9.19

学会・研究会発表

①鈴木誠也

横浜市立大学救急医学教室における 専攻医教育の取り組み

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会　2021.11.22

②岡野　弘

重症新型コロナウイルス（COVID-19）肺炎患者へのステロイドパルス療法の検討

（後ろ向き研究）

第 49 回 日本集中治療医学会　2022.3.19

③岡野　弘

血管確保のシミュレーション・トレーニングは機械的合併症を低下させない(無作為化比較試験のメタ・アナリシス)

第 68 回日本麻酔科学会　2021.6.3

④新居田翔子

COVID19 に縦隔気腫/気胸を合併した症例についての検討

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会　2021.11.21

⑤十河梓

オランザピンによる薬剤性過敏症症候群が疑われた一例

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会　2021.11.21

⑥宮川岳雄

胸骨圧迫による内胸動静脈損傷・大量血胸となり外科的止血術により救命した一例

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会　2021.11.23

⑦宮川岳雄

当院における COVID-19 肺炎の肥満患者(BMI≧30）の治療経過の検討

第 49 回 日本集中治療医学会　2022.3.18

⑧歌田州佑

ヘパリン起因性血小板減少症が疑われた重症 COVID-19 肺炎の２例

第 5 回日本集中治療医学会関東甲信越支部学術集会　2021.6.12

⑨歌田州佑

重症 COVID-19 肺炎に対して VV-ECMO 施行中に高度脳浮腫を呈した 1 例

第 49 回 日本集中治療医学会 2022.3.18

⑩四宮祥恵

交通外傷による胸部外傷に対して右肺下葉切除術を施行した症例

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会　2021.11.21

⑪吉田 敦

当院における病院救急救命士の役割とは

第 2 回　神奈川県救急科医会　学術集会　2021.9.18

⑫吉田 敦

急性期医療機関が行う新型コロナウイルスへの水際対策-地域高齢者福祉施設への出張勉強会

第 75 回　国立病院総合医学会　2021.10.23

⑬南 さくら

外傷性肝損傷後に下大静脈血栓症を合併した 2 例

第 35 回 日本外傷学会総会・学術総会　2021.5.28

⑭南 さくら

重症 COVID-19 肺炎に対して一酸化窒素吸入を行った 2 症例

第 43 回 日本呼吸療法医学会学術集会　2021.7.4

⑮望月 聡之

当院における腹部外傷診療治療戦略

第 57 回 日本腹部救急医学会総会　2022.3.24

⑯望月 聡之

大腸穿孔術後腹腔内出血の 1 例―当院における Acute Care Surgery の実践

第 13 回 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会　2021.11.27

⑰小栗 絢子

喀血に対してダブルルーメンチューブを留置して ICU 管理を行った 1 例

第 49 回 日本集中治療医学会　2022.3.19

⑱梶山 くるみ

健常成人男性に発症した旧青函先生電撃性紫斑病の治療を病院連携で就学的治療した一例

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会　2021.11.23

⑲飯澤 勇太

致死量のブロムワレリル尿素中毒に対して内視鏡的薬塊除去を行った一例

第 49 回 日本集中治療医学会　2022.3.19

⑳江藤 優真

Acromegalic cardiomyopathy による心肺停止から復帰した 1 例の報告

第 49 回 日本集中治療医学会　2022.3.19

座長

①古谷良輔

ミニオーラル 55 鎮静・鎮痛

第 49 回日本救急医学会総会・学術総会 2021.11.22 東京

講演

①古谷良輔

「新型コロナウイルス感染症 第 6 波に備えて」

戸塚区医師会フリーディスカッションの会　2021.11.12 戸塚区

②宮崎弘志

第 49 回日本救急医学会総会・学術集会 共済セミナー　2021.11.21 東京

③岡野弘

「最近の呼吸管理」

第 19 回人工呼吸器安全セミナー2022.3.5 WEB

④堀内弘司

「新型コロナウイルスワクチン接種後の日常生活」

泉区在宅医療市民啓発講座　2021.11.24 泉区

研修の講演

①大塚剛

EMIS 操作研修　2021.12.9 戸塚

②吉田敦

EMIS 操作研修　2021.11.4　2021.12.9 戸塚

パネリスト

①新居田翔子

Sepsis Online Seminar@Yokohama　2021.12.22 WEB

②吉田敦

Cover Japan Yokohama West　2021.10.18 WEB

外科

外科は専攻医 1 人を含む 10 人で診療しています。8 人の外科専門医＆消化器外科専門医のうち 4 名が内視鏡外科技術認定医（大腸：清水・柿添・後藤、胃：木村）、1 名が肝胆膵外科高度技能指導医（藤井）で、大腸癌、胃癌に対する腹腔鏡下手術、質の高い肝胆膵手術を積極的に行っています。また、急性虫垂炎、両側・再発鼠径ヘルニア、急性胆嚢炎を伴った胆嚢結石症に対しても、可能な限り低侵襲な腹腔鏡下手術を行っています。また従来通り、急性腹症の患者さんには迅速に対応致しますので、いつでも遠慮なく御相談下さい。

外来日は月・火・水・木で、月曜：大腸、乳腺外来、火曜、木曜：肝胆膵外来、水曜：胃・食道外来ですが、初診は各疾患、いずれの曜日でも受け付けていますので、患者さんの都合に合わせてご紹介下さい。また術後、癌が再発した患者さんに対しても、化学療法センター、放射線治療科、緩和ケア内科とともに、親身になった診療を行って参りますのでよろしくお願い申し上げます。

原著・論文

① 大石裕佳、関戸仁、松田悟郎、清水哲也、木村準、鶴丸裕司
急性虫垂炎術後の急性副腎不全の 1 例
日本臨床外科学会雑誌 2021；82(6) 1142-1147

② 藤原大樹、柿添学，大石裕佳，山本悠史，清水哲也，関戸仁
異所性子宮内膜症による虫垂重積の 1 例
日本臨床外科学会雑誌 2021；82(9) 1699-1703

学会・研究会発表

① 木村準、関戸仁、松田悟郎、清水哲也、柿添学、大西宙、堀井伸利、山本悠史、
藤原大樹、田中裕佳、鶴丸裕司
当院の高齢者胃癌に対する開腹幽門側胃切除術の治療成績
第 43 回日本癌局所療法研究会　2021.5.21

② 秋山信助、藤原大樹、大石裕佳、堀井伸利、山本悠史、矢澤慶一、柿添学、
木村準、清水哲也、松田悟郎、関戸仁
異所性子宮内膜症による虫垂重積症の 1 例
第 860 回外科集談会　2021.6.26

③ 木村準、関戸仁、松田悟郎、清水哲也、柿添学、大西宙、堀井伸利、山本悠史、
藤原大樹、田中裕佳、鶴丸裕司
高齢者胃癌に対する開腹幽門側胃切除術の治療成績
第 76 回日本消化器外科学会総会　2021. 7. 8

④ 藤原大樹，柿添学，秋山信助，大石裕佳，山本悠史，堀井伸利，矢澤慶一，木村準，清水哲也，松田悟郎，藤井義郎
当院における腹腔鏡下大腸切除術の小開腹創に対する筋膜連続縫合閉鎖の治療成績
第 157 回神奈川県臨床外科医学会集談会 2022. 2. 19

⑤ 川崎千瑛、藤原大樹，柿添学，秋山信助，大石裕佳，山本悠史，堀井伸利，矢澤慶一，木村準，清水哲也，松田悟郎，藤井義郎
混合型肝癌術後に肝門部のリンパ節に再発した 1 例
第 157 回神奈川県臨床外科医学会集談会 2022. 2. 19

⑥ 木村準、堀井伸利、秋山信助、大石祐佳、藤原大樹、山本悠史、柿添学、清水 哲也、
松田悟郎
Surgical outcomes of open distal gastrectomy for gastric cancer in elderly patients
第 94 回日本胃癌学会総会　2022. 3. 3

⑦ 堀井伸利、木村準、秋山信助、大石祐佳、藤原大樹、山本悠史、柿添学、清水哲也、
松田悟郎
当院におけるニボルマブの治療成績
第 94 回日本胃癌学会総会　2022. 3. 3

呼吸器外科

横浜医療センター呼吸器外科は、原発性肺癌をはじめ、気胸、膿胸、胸部外傷、転移性肺癌、縦隔腫瘍などの疾患を対象に、根治性と QOL とのバランスを最大限考慮した胸腔鏡手術を行っております。肺癌に関しては、呼吸器内科、放射線科とともに、毎週カンファレンスを開催して治療方針を決定しており、気胸や胸部外傷に対しては、救急科との間で緊密に連携を図りながら、積極的に受け入れを行うよう努めております。

また当科は、日本呼吸器外科学会専門研修連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設として、専門的な医療の提供を心がけているほか、将来の医療の発展のために、肺癌の再発抑制を目的とした特定臨床研究（FLAX study）をはじめ、複数の臨床研究に積極的に参加しております。

原著論文

①Watanabe K, Noma D, Masuda H, Masuda M:
Preoperative inflammation-based scores predict early recurrence after lung cancer resection.
J Thorac Dis, 13: 2812-23, 2021

②Takahiro Omori, Sho Nakamura.
Angiolipoma of the chest wall: a case report.
Surgical Case Reports. https://doi.org/10.1186/s40792-022-01384-y.

③大森隆広，中村　生
転倒による肋骨骨折で発症した外傷性横隔膜ヘルニアの 1 例.
胸部外科，75 巻 3 号，236-239，2022.

学会・研究会発表

①高田雅人，中村　生，大森隆広

胸壁血管脂肪腫の 1 切除例.

第 83 回日本臨床外科学会総会.　2021. 11. 18.

②泉　摩依，大森隆広，中村　生

外傷性横隔膜ヘルニアの 1 例.

第 83 回日本臨床外科学会総会. 2021. 11. 18.

③中村　生，大森隆広.

原発性肺動脈血管肉腫の 1 切除例.

第 62 回日本肺癌学会学術集会. 2021. 11. 28.

④加藤　真，鈴木紳祐，小野寺篤，大沼静音，井上広英，藤川寛人，五代天偉，熊切寛，鈴木紳一郎，山本裕司，利野　靖.

直腸神経内分泌癌の一例,

第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会. 2021. 11. 22.

⑤渡部克也

臨床試験報告（FLAX study）.

第 76 回 Y. L セミナー（Zoom），2021，6.

⑥渡部克也

進捗状況報告（FLAX study）.

横浜市立大学呼吸器外科　臨床試験連絡会議（Zoom），2022，3.

整形外科

原著論文

なし

講演

①小澤　祐樹

骨粗鬆症外来の地域連携

Osteoporosis Hybrid Seminar In Kanagawa 2021 年 7 月 14 日 横浜

②佐藤　雅経

骨脆弱性椎体骨折に対する手術療法

Pain Symposium. 2021 年 9 月 30 日 横浜

パネリスト

①日塔　寛昇

社会課題として見る時の繰り返す骨折　～傾向と対策～.

Asahi Osteoporosis Online Seminar@湘南 2022 年 3 月 18 日 藤沢

座長

①日塔　寛昇

Osteoporosis Hybrid Seminar In Kanagawa 2021 年 7 月 14 日 横浜

研究会主催

①日塔　寛昇

Osteoporosis Hybrid Seminar In Kanagawa 2021 年 7 月 14 日 横浜

②日塔　寛昇

Pain Symposium 2021 年 9 月 30 日 横浜

③日塔　寛昇

横浜南西部骨粗鬆症ネットワーク 2021 年 11 月 10 日 横浜

形成外科

形成外科が専門に扱う領域は、日本形成外科学会の分類によると、以下の１１項目です。

１．新鮮熱傷
２．顔面骨骨折・顔面軟部組織損傷
３．唇裂・口蓋裂*
４．手・足の先天異常・外傷*
５．その他の先天異常
６．母斑・血管腫・良性腫瘍
７．悪性腫瘍・再建
８．瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド
９．褥創・難治性潰瘍
１０．美容外科*　　（*は当院では行っていません）
１１．その他

形成外科では、体表より知ることのできる腫瘍、外傷、変形などを外科的な手技（切る・縫うなど）をもちいて治療しています。
形成外科の特徴は、疾患を治すことはもちろんですが、手術に伴う傷跡を極力目立たなくするような治療を行うことです。傷を全く無くすことは不可能ですが、傷跡が気になる場合にはご相談ください。

原著・論文

①篠﨑智公・柏木慎也・岩川さおり・宇賀神叶美・和唐純平・武田啓・三枝信
背部原発の上皮筋上皮癌の１例．形成外科，64：987-993，2021

学会・研究会発表

①和唐純平，柏木慎也
Subtotal integumentectomy を行った悪性黒色腫 11 例の検討
第 45 回日本リンパ学会総会、2021 年 6 月 5 日

②和唐純平，柏木慎也，熊澤健一，森山和の，武田啓、
指先部悪性黒色腫の切除範囲に関する検討
第 13 回日本創傷外科学会総会・学術集会、2021 年 7 月 16 日

③和唐純平，村下一晃
LINE 公式アカウントを用いたマイクロトレーニング週間
第 24 回北里形成外科フォーラム、2021 年 7 月 17 日

④和唐純平，村下一晃
急速な下肢筋力低下を呈した糖尿病性神経障害の 1 例、
第 24 回北里形成外科フォーラム、2021 年 7 月 17 日

脳神経外科

脳神経外科は常勤医 10 名と神奈川県下の市中病院では最大規模の人数です。2021 年の年間入院数は 886 名、手術件数は 474 件でした。脳血管障害、脳腫瘍の 2 大疾患の週 3 回の予定手術のほか、脳卒中や重傷頭部外傷などの緊急手術にも迅速に対応するよう心がけています。近隣のクリニックや病院からの紹介や救急車の搬送要請も原則断らない診療体制の構築と、安全良質な医療を提供するようにしています。また R4 年度から Youtube で患者さん向けの脳神経外科疾患の案内を行っています。当科ホームページを是非ご覧ください。

論文・総説

①Raisa Sato, Kosuke Miyahara, Tomu Okada, Shin Tanino, Yasuhiro Uriu, Shunsuke Hataoka, Yusuke Tanaka, Noriaki Sekiguchi, Naoyuki Noda, Shun Ishikawa, Teruo Ichikawa, Kazuhiko Fujitsu

Transpetrosal Approach for A Giant Thrombosed P2 Segment Posterior Cerebral Artery Aneurysm

NMC Case Report Journal 2021 Volume 8 Issue 1 Pages 439-443

②Suzuki, Takashi; Takao, Hiroyuki; Suzuki, Tomoaki; Hataoka, Shunsuke; Kodama, Tomonobu; Aoki, Ken; Otani, Katharina; Ishibashi, Toshihiro; Yamamoto, Hideki; Murayama, Yuichi; Yamamoto, Makoto
Proposal of hematocrit-based non-Newtonian viscosity model and its significance in intracranial aneurysm blood flow simulation
JOURNAL OF NON-NEWTONIAN FLUID MECHANICS 290　2021.4

③田中悠介，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，畑岡峻介，関口徳朗，野田尚志，長嶋薫，石川駿
脳腫瘍栄養血管塞栓術後の体温上昇
脳血管内治療 J-STAGE 早期公開 2021 年 6 月 28　NKC Vol.6 No.2 P68-73

著書

(1) 宮原宏輔
脳腫瘍手術における再手術時の留意点は？
脳神経外科速報 2021 年増刊　脳神経外科手術 基本手技のバリエーション 4 章 脳腫瘍の手術　P256-261

(2) 吉村紳一, 田中悠介
救急搬送された患者・ご家族の皆様へ　－救急隊からの情報で“脳卒中を疑っています”－
ジョンソンエンドジョンソン株式会社　セレノバズ事業部 Johnson & Johnson K.K.2021・198236-211207

学会・研究発表会

(1) 宮原宏輔
急性期病院のコロナ対策
第 24 回横浜脳卒中・リハ連携研究会（Y-CIRCLE）　横浜　2021. 6. 23

(2) 宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，藤津和彦，
後方に進展した内側蝶形骨縁髄膜腫に対する手術
第 33 回日本頭蓋底外科学会　東京　2021. 7. 1-2021. 7. 2

(3) 宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，藤津和彦
難治性内側蝶形骨縁髄膜腫に対する手術戦略
第 26 回日本脳腫瘍の外科学会 東京 2021. 9. 9-2021. 9. 10

(4) 宮原宏輔，藤津和彦，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫
内頸動脈の偏位に応じた内側蝶形骨縁髄膜腫手術の工夫について
第 80 回日本脳神経外科学会学術集会　横浜　2021. 10. 27-2022. 10. 30

(5) 宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，岡本楓
部位別にみた小脳動静脈奇形の特徴について
第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会　大阪　2022. 3. 17-2022. 3. 19

(6) 岡田富，藤津和彦，宮原宏輔，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，市川輝夫
小児頭蓋咽頭腫における外科治療の主導的役割
第 26 回日本脳腫瘍の外科学会　東京　2021. 9. 10

(7) 谷野慎，宮原宏輔，岡田富，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，藤津和彦
難治性頭蓋底髄膜腫に対する手術戦略
第 26 回日本脳腫瘍の外科学会 東京 2021. 9. 9-2021. 9. 10

(8) 瓜生康浩，藤津和彦，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，石川駿，長嶋薫
海綿静脈洞腫瘍に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術と開頭術の組み合わせ
第 33 回日本頭蓋底外科学会　東京　2021. 7. 2

(9) 瓜生康浩，鈴木幸二，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，畑岡峻介，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，石川駿，佐藤来紗，藤津和彦
カベルゴリン治療中に下垂体卒中を起こしたマクロプロラクチノーマの 1 例
第 94 回日本内分泌学会学術総会　WEB 開催　2021. 4. 22-2021. 4. 24

(10) 田中悠介
Combined Technique における ACE68 の強み
AIS 全集中座談会　WEB 開催　2021. 4. 23

(11) 田中悠介
横浜西部地区における脳梗塞急性期治療の取り組み
CERENOVAS AIS Webinar（パネリスト）　2021. 5. 13

(12) 田中悠介
血栓回収療法の実際 ～抗凝固療法を含めて～
横浜南西部 PSC Web Seminar 2021. 5. 25

(13) 田中悠介
横浜西部地区における脳梗塞急性期治療の取り組み
CERENOVAS AIS Webinar　Cover Japan Yokohama West（パネリスト）　2021. 10. 18

(14) 田中悠介，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，藤津和彦，
脳腫瘍栄養血管閉塞術後の体温上昇
第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会　福岡　2021. 11. 25-2021. 11. 27

(15) 野田尚志，田中悠介，関口徳朗，大友優太，長嶋薫
迷走神経鞘腫摘出時に損傷し発症した仮性内径動脈瘤に対してステント併用コイル塞栓術を行った一例
第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会　福岡　2021. 11. 25-2021. 11. 27

(16) 野田尚志，宮原宏輔，谷野慎，田中悠介，大友優太
内径動脈瘤に対して Balloon catheter を使用した Suction decompression 併用下に Clipping を行った 3 例
第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会　大阪　2022. 3. 17-2022. 3. 19

(17) 大友優太，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，長嶋薫，藤津和彦
偶発的に認められた斜台部脂肪腫の一例
第 145 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会　2021. 9. 14

(18) 大友優太，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，長嶋薫
頭部造影ＭＲＩと血清Ｉｇ G4 高値が診断に有用であった両側小脳橋角部の肥厚性硬膜炎の一例
第 80 回日本脳神経外科学会学術総会　ポスター発表　2021. 10. 27-2021. 10. 30

(19) 大友優太，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，岡本楓
破裂 PICA 抹消動脈瘤に対し Clipping が困難であった 2 例
第 146 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会　2021. 12. 11

(20) 藤津和彦，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，市川輝夫
腫瘍発育様式の分類を基に頭蓋底腫瘍の治療成績を向上させる有用な術前シミュレーション
プラクティス
第 33 回日本頭蓋底外科学会　東京　2021. 7. 1-2021. 7. 2

(21) 藤津和彦，宮原宏輔，岡田富，谷野慎，瓜生康浩，田中悠介，関口徳朗，野田尚志，大友優太，長嶋薫，市川輝夫
聴力温存聴神経腫瘍手術の長期治療戦略
第 26 回日本脳腫瘍の外科学会　東京　2021. 9. 9-2021. 9. 10

講演

(1) 宮原宏輔
最新の脳神経外科治療　－ 地域中核病院としての当院の診療体制と地域連携 －
最新の脳血管治療 WEB セミナー　横浜　2021. 12. 03

心臓血管外科

横浜医療センター心臓血管外科では虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術、弁膜症に対する弁形成・弁置換術、大動脈瘤に対する人工血管置換術、並びにステントグラフト内挿術、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術、下肢動脈虚血(ASO)に対する血行再建術や慢性腎不全患者に対するシャント造設術を含めた末梢血管手術などを行っています。

例年200件以上の手術を行っており、うち開心術(心臓・胸部大血管手術)は100件を超えています。手術適応は海外のガイドラインを参考として日本循環器学会のガイドラインに準じており、循環器内科・心臓血管外科、内科外科合同カンファレンスにおいて症例検討を行った上で適応を決めています。

引き続き心臓血管外科専門医認定機構の基幹施設として、この地域の心臓血管外科治療に尽力し、手術適応を遵守した、安定した治療成績を提供できるよう努めて参ります。

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①村上弘典

Stanford B 型急性大動脈解離の中期成績と外科的加療に至る危険因子に関する検討

第74回日本胸部外科学会学術総会　2021.11.1～オンデマンド

皮膚科

皮膚科は常勤２名体制です。当院の規模から考えると最小限で非常勤もおりませんが、地域の先生方に支えられ何とか運営できております。この場をお借りして御礼申し上げます。
後期研修医は学会発表１回と論文１報以上を目標に頑張ってもらっています。
地域の医療を支える中核病院の皮膚科として、院内外の御要望に応えられるように切磋琢磨して参りますので宜しくお願い致します。

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①飼沼実優

中毒性表皮壊死症に類似する臨床像を呈した薬剤性線状 IgA 水疱性皮膚症の１例

第 899 回日本皮膚科学会東京地方会　2021.12.18

泌尿器科

現在のスタッフ構成は常勤４名および非常勤１名です。
昨年に続き尿路結石の治療件数が高い水準で推移しておりますが、手術療法の中心は泌尿器悪性腫瘍の低侵襲手術に据えております。
令和４年には腹腔鏡下膀胱癌摘出術を施行開始いたしました。
また最近の変化として、尿路悪性腫瘍における免疫チェックポイント阻害薬の保険適応が立て続けに通過し、外来化学療法件数の増加がみられております。
安全な外来治療維持のため、化学療法室・薬剤科・検査科など各部門のご協力をいただきつつ対応してまいります。

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①今野真思

当院における骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム-223 の使用経験
第 73 回西日本泌尿器科学会　2021.11.4

②宮井敏孝

当院における 75 歳以上の高齢者に対する TUL の臨床的検討について
第 72 回日本泌尿器科学会中部総会　2021.10.7

眼科

横浜医療センター眼科は、質の高い眼科医療の提供を目指し、地域医療に貢献するため診療を行っております。2022 年現在、常勤医師 5 名、非常勤医師 2 名、視能訓練士 2 名、メディカルアシスタント 1 名が在籍しております。

眼科全般の診療を行っておりますが、扱いの多い分野は白内障手術・硝子体手術・斜視手術・眼瞼手術となっております。手術の低侵襲化を実現し、入院期間が短縮され日帰り手術も積極的に行っております。月曜日から金曜日まで毎日手術は行っており、2021 年の手術件数は 2017 件でした。
外来診療は月曜日から金曜日まで 2 診体制で行っております。1 日の外来患者数は平均 50 名程度で、緊急性のある患者さんへの対応も行っております。
今後も臨床に磨きをかけ地域医療に貢献して参ります。

発表

東邦大学学術研究会　2022. 2. 16　ウェブ開催
甲状腺眼症に対して鼻内視鏡下で眼科減圧術を施行した 1 例
永田有司

東邦大学学術研究会　2022. 2. 16　ウェブ開催
緑内障に併発した Intrachoroidal cavitaion の 1 例
藤田智子

原著

５年経過にて黄斑周囲に発生した浮腫が観察できた Eales 病の 1 例
眼科臨床紀要 15 巻 1 号
須磨崎さやか、高木誠二、松本直、芝友明、鈴木崇、岡部智子、富田匡彦、堀裕一

左右差のある Acute Syphilitic posterior placoid chorioretinitis を呈した梅毒性ぶどう膜炎の眼血流変化
眼科 64 巻 1 号
藤田智子　松本直、柿栖康二、小松哲也、渡辺研人、堀裕一

歯科口腔外科

歯科口腔外科では，抜歯，嚢胞，顎関節疾患，口腔粘膜疾患，良性・悪性腫瘍などあらゆる口腔外科疾患に対応しています．再建が必要な口腔癌症例につきましては横浜市立大学附属病院歯科口腔外科と連携して対応しています．また，他診療科の手術症例に対する口腔機能管理，がん薬物療法患者の口腔有害事象対策を通して術後合併症の低下，治療中断の減少に努めています．週 1 回の口腔ケアラウンドでは口腔管理の困難な症例の抽出と口腔ケア方法の指導も行っています．さらに NST 摂食・嚥下チームに参加して機能評価と治療に取り組んでいます．

写真説明：顎骨腫瘍摘出術

原著論文

①Sekiya H, Kurasawa Y, Maruoka Y, Mukohyama H, Negishi A, Shigematsu S, Sugizaki J, Ohashi M, Hasegawa S, Kobayashi Y, Ueno M, Michiwaki Y.
Cost-Effectiveness Analysis of Perioperative Oral Management after Cancer Surgery and an Examination of the Reduction in Medical Costs Thereafter: A Multicenter Study.
Int J Environ Res Public Health. 18(14): 7453-7466. 2021;

講演

①根岸明秀

新型コロナウイルス感染蔓延着の口腔ケア　-感染防止対策の基本は同じ-.

第 18 回日本口腔ケア学会総会・学術大会．感染対策教育委員会講演．2021.4.18.東京.

②根岸明秀

口腔粘膜疾患と口腔がん・周術期口腔機能管理の minimum requirement.

2021 年度泉区口腔粘膜疾患等啓発事業．2021.11.22.　Webinar.

世話人

①根岸明秀

第 23 回顎顔面手術手技研究会．根治的頸部郭清術変法．2021.7.31.　Webinar.

著書

①根岸明秀.

周術期における口腔ケア．第 12 章がん患者に対する口腔ケア．介護福祉士のための口腔ケアマニュアル．(公社) 日本介護福祉士会，(一社) 日本口腔ケア学会監修．口腔保健協会．第 1 版，東京．138-139，2022.

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室を基幹施設とする専門研修プログラムの連携施設として、同教室からの専攻医派遣を受け診療を行っております。現在は常勤医２名体制です。耳鼻咽喉科全般の診療が可能です。手術が必要な頭頸部腫瘍の方は主に横浜市立大学付属市民総合医療センター、神奈川県立がんセンター、藤沢市民病院などに紹介を行い、加療をお願いしております。
写真は常勤医２名（前列）と、当科所属のST、MA（後列左から）です。

原著・論文

なし

学会・研究会発表

なし

麻酔科

学会・研究会発表

①稲田顕子　鈴木宏昌　山田宏　菅原泰常　大川卓巳　黒木洋子　奥山志織
野島優佳　松下瑞穂
巨大卵巣腫瘍摘出術で呼吸循環管理に留意し麻酔管理した一例
神奈川麻酔科医会　第 52・53 回合同学術集会　2022.3.5

緩和ケア内科

緩和ケア内科では、主にがんによる不快な症状と、各種慢性痛の治療を行っています。がんの治療や病状の進行に伴う痛み、痛み以外の様々な身体症状（手足のしびれ、呼吸困難、だるさ、嘔気等）にお悩みの患者さんに、薬物治療や認定看護師によるケアを行うと同時に、不眠・不安・抑うつなどの精神症状に対しては、緩和ケア担当の精神科医師や看護師、臨床心理士と連携し、治療と社会生活が両立できるよう支援しています。

また、ペインクリニックとして慢性痛の患者さんの治療も行っております。こちらは、補助的に投薬治療をしながら、身体の機能維持と、生活の質の向上といった目標に向けてお手伝いをいたします。

原著論文

なし

学会・研究会発表

なし

研修会、座長など

①中橋　勇典

2021 年　横浜医療センター緩和ケア研修会　企画責任者　2021. 12. 11

臨床研究部

治験管理室

当院では、現在、糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、皮膚科、消化器内科、外科、膠原病リウマチ内科、小児科、脳神経外科、精神科、救急科、循環器内科、泌尿器科、脳神経内科と複数科での多岐にわたる疾患の治験を実施しており、年々治験実施件数は増えてきている状況にあります。治験管理室では、患者さんの安全を第一に、院内で治験が適切かつ安全に行われるよう医師、患者さんだけでなく、院内の治験に関わる全ての部署のコーディネート業務や IRB の事務局業務を行っています。

今後も院内の関連部署の協力を得ながら多くの治験を行い、患者さんにとってより良い新薬が届けられるよう貢献していきたいと考えております。

原著・論文

①Iguchi M, Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Ajiro Y, Matsuda M, Koike A, Koizumi T, Shimizu M, Ono Y, Takenaka T, Sakagami S, Morita Y, Fujimoto K, Yonezawa K, Yoshida K, Ninomiya A, Nakamura T, Funada J, Kajikawa Y, Oishi Y, Kato T, Kotani K, Abe M, Akao M, Hasegawa K; PREHOSP-CHF Study Investigators.

Soluble vascular endothelial growth factor receptor 2 and prognosis in patients with chronic heart failure

ESC Heart Failure 8(5) 4187-4198　2021.10

②Ajiro Y

Cardiac myxoma as cytokine producing tumour: A review

Interventional Cardiology　13(S3) 58-63　2021.4

③Sekiguchi H, Tanino S, Serizawa N, Hagiwara N.

A novel optimized adaptive servo-ventilation setting for a patient with severe heart failure based on the echocardiogram: a case report

European Heart Journal Case Reports　6(3)　2022.2

.

学会・研究会発表

なし

薬剤部

原著・論文

①Yuuki Akagi, Akiko Iketaki , Reiko Nakamura , Shigeo Yamamura , Minori Endo , Keisuke Morikawa , Shun Oikawa , Takahiro Ohta , Shimpei Tatsumi , Takafumi Suzuki , Atsuhiro Mizushima , Keiichi Koido , Tatsuya Takahashi
Association between Cerebral Infarction Risk and Medication Adherence in Atrial Fibrillation Patients Taking Direct Oral Anticoagulants
Healthcare　9 (10) 1313　2021.10

②太田貴洋、赤木祐貴、高橋　郷、小井土啓一、大越千紘、宇田川涼子、福田祐介、齊藤達也、大竹将司、及川　瞬、中國正祥、野村久祥、大橋養賢、近藤直樹、齊藤真一郎阿部直樹、川﨑敏克、山口正和
臨床研究推進を目的とする研修会開催による薬剤師のアウトカムに関する調査：関信地区国立病院薬剤師会の取り組み
医療　75(3)　265-269　2021.6.1

著書

①小井土　啓一
血液腫瘍治療薬
Evidence Update 2022 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する
pp172-176　2022.1

学会・研究会発表

①小井土　啓一
血液腫瘍領域の抗菌薬マネジメント
シンポジウム 3：がん患者における感染症マネジメント
日本臨床腫瘍薬学会学術大会 20222022.3.12（Online LIVE 配信）
2022.3.21～2022.3.31（OnDemand 配信）

②小井土　啓一

APACC/BPACC に制度概要と手続きに関する Tips

シンポジウム 6：APACC/BPACC の取得に向けて「制度」と「技能評価基準」の理解をお助けする 90minutes

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022　2022.3.12（Online LIVE 配信）

2022.3.21～2022.3.31（OnDemand 配信）

③池滝　晶子、石川　紗耶香、高田　悠由、吉川　至、小井土　啓一、澤井　孝夫

病棟薬剤業務において多職種から依頼された質疑応答等対応事例の内容分析調査

第 51 回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会　2021.8.28

④山田　みなみ、赤木　祐貴、木村　晴奈、石川　紗耶香、吉川　至、小井土　啓一、小杉　葉子、岡田　富、澤井　孝夫

入院調整センターにおける薬剤師による術前休薬確認の有用性について

第 51 回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会　2021.8.28

⑤石川　紗耶香、押賀　充則、木村　晴奈、中村　玲子、小井土　啓一、吉川　至、澤井　孝夫

フォーミュラリ導入による外来処方動向の比較

第 75 回国立病院総合医学会　2021.10.23

⑥赤木　祐貴、押賀　充則、池滝　晶子、長島　愛、田中　亜希、山田　みなみ、石川　紗耶香、吉川　至、小井土　啓一、澤井　孝夫

薬剤管理指導記録の標準化· 負担軽減に向けた薬剤部としての方針の取り決めとその評価

第 75 回国立病院総合医学会　2021.10.23

⑦中村　玲子、押賀　充則、木村　晴奈、澤井　孝夫、小井土　啓一、吉川　至

薬剤師による処方代行入力事例に基づく医薬品マスタメンテナンスへの検討

第 75 回国立病院総合医学会　2021.10.23

⑧池滝　晶子、石川　紗耶香、高田　悠由、吉川　至、小井土　啓一、澤井　孝夫

病棟薬剤業務において多職種から依頼された質疑応答等対応事例の内容分析調査

第 75 回国立病院総合医学会　2021.10.23

⑨山田　みなみ、赤木　祐貴、木村　晴奈、石川　紗耶香、吉川　至、小井土　啓一、小杉　葉子、岡田　富、澤井　孝夫

入院調整センターにおける薬剤師による術前休薬確認の有用性について

第 75 回国立病院総合医学会　2021.10.23

⑩宇留賀　仁史、小井土　啓一、橋本　章吾、高田　悠由、山田　みなみ、堀田　恵美子、松田悟郎、澤井　孝夫

地域保険薬局を対象とした外来がん薬物治療の研修会の評価～継続的かつ効果的な実施に向けて～

第 75 回国立病院総合医学会　2021.10.23

講演

①小井土　啓一

論文の批判的吟味

関信地区国立病院薬剤師会臨床研究推進研修会

2021.7.31（Online　LIVE 配信）

②小井土　啓一

がん薬物療法概論①

日本臨床腫瘍薬学会　Essential　Seminar　Neo　2022　A-Program　2021.8.10～2021.8.23（OnDemand 配信）

③小井土　啓一

医療安全×抗がん薬～なにからやるか？どこまでやるか？～

東京都病院薬剤師会　医療安全研修会　2021.11.24（Online　LIVE 配信）

④赤木　祐貴

初めて論文を書くまで　その意義とお作法について

関信地区国立病院薬剤師会臨床研究推進研修会　2022.1.25（Online　LIVE 配信）

⑤小井土　啓一

悪性リンパ腫治療患者の副作用管理～易感染性の対策と対応～

オンたまの会　2022.2.26（Online　LIVE 配信）

⑥小井土　啓一

外来がん治療認定薬剤師（APACC）/外来がん治療専門薬剤師（BPACC）制度の概要と育成の要点

日本臨床腫瘍薬学会　薬学介入と事例報告のための WEB 研修会 2022.3.21、2022.3.27（Online　LIVE 配信）

⑦小井土　啓一

よりよい薬学介入のための医薬品情報①

日本臨床腫瘍薬学会　薬学介入と事例報告のための WEB 研修会 2022.3.21、2022.3.27（Online LIVE 配信）

座長

①小井土　啓一

シンポジウム　6

APACC/BPACC の取得に向けて「制度」と「技能評価基準」の理解をお助けする 90minutes

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022　2022.3.12

診療放射線科技師

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①菅原　崇

左乳房深吸気息止め照射の位置誤差による心臓線量への影響

第 75 回　国立病院総合医学会　2021. 10. 23

②柿崎圭亮

骨塩定量測定について

横浜南西部骨粗鬆症ネットワーク　2021. 11. 10

③斉藤　剛

～各施設における線量管理の運用方法の紹介～　当院 RI 部門における線量管理

国立病院関東甲信越診療放射線技師会　第 4 回医用画像情報研修 RI 編　2021. 4. 10

臨床検査科

横浜医療センター臨床検査科は診療支援の一部門として、 「横浜市南西部地区地域中核病院の一 員として強い使命感を持ち業務にあたる」をスローガンに掲げ、 臨床検査関連の業務、 治験、研究補助を実施しています。 総勢 29 名にて検体検査、 微生物検査、 病理検査、 輸血検査、生理機能検査を 24 時間体制で実施しております。
臨床からの指示にて実施する検査の結果は、 診断、 治療方針の決定、 予後予測に重大な影響をもたらします。 そのため、精確な結果を迅速に提供することが求められます。 当検査科は、患者さんのために、 品質マネジメントシステムの構築と進歩する検査技術への対応能力を維持するために、 日々検査の質向上を目指し研鑽しております。

学会・研究会発表

① 大畑 真利

新型コロナウイルス感染症に対する当院超音波検査室の取り組み

第 46 回日本超音波検査学会学術集会　2021.5.6

②森　真衣子

胸水中に出現した類上皮血管内皮腫の 1 例

第 49 回国臨協関信支部学会　2021.9.4

③安中　未華

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する当院生理機能検査室の取り組み

第 49 回国臨協関信支部学会　2021.9.4

集中管理部（ME 室）

集中管理部は、集中管理部長（循環器内科医師）のもと臨床工学技士 17 名と ME 室助手 2 名の計 20 名で構成されています。
主な業務内容は、生命維持管理装置である人工心肺装置（約 100 件/年）や補助循環装置（約 50 件/年）、血液浄化装置（約 1000 件/年）、その他心臓カテーテル治療・検査（約 1800 件/年）の際に使用される装置等の操作監視を行う臨床技術提供業務と、人工呼吸器（約 500 件/年）やその他汎用性の高い医療機器（生体情報モニタ・輸液ポンプ等）を安全かつ適切な使用ができるように管理運用を行う機器管理業務です。そのため、日頃から医師や看護師その他の医療関係職種と緻密なチーム連携を図りながら、高度な医療機器の操作・保守管理を行っています。
今後、更なる高度化・複雑化した医療機器の増加が見込まれます。引き続き、みなさまからの要望と期待に応え、より多くの医療機器の安全性確保と有効性維持が図れるよう、業務体制の強化に努めていきます。

原著・論文
なし

学会・研究会発表
なし

講演等
①黒丸彰洋
「Heart-Lung Machine Round Table Meeting」
リヴァノヴァ㈱　WEB イベント、　2021.7.29

座長
なし

栄養管理室

現在、栄養管理室は管理栄養士 10 名、調理師 5 名調理員 1 名、業務委託職員で構成されています。

個々の病態に即した安全で美味しい食事の提供、病態と生活習慣を考慮した栄養食事指導、多職種と協働する中で最適な栄養療法を提案する各チーム医療活動等を通して患者さんの診療に貢献するため日々奮闘しております。

昨年より入院調整センター（PCC）では周術期における管理栄養士介入の対象を原則とし全患者さんに拡大をしました。入院、手術に備え、直接栄養に関する問診、食物アレルギーの有無、嚥下機能低下の確認、栄養状態の評価、入院中の食事の説明、周術期の栄養管理等について栄養食事指導を行い、患者さんに安心して手術に臨んでいただけるよう努めております。

また、当院で出産された方にささやかなお祝い膳を提供していますが、8/1 よりリニューアルし和食と洋食から選んでいただけるようになり、栄養バランスを取りながらお楽しみいただいております。

リハビリテーション

当院のリハビリテーション科は急性期病院のリハビリテーションの役割として入院患者様を主な対象とし、早期の介入に努め実施しております。
主な対象疾患は脳卒中などの中枢神経疾患や、交通外傷、運動器疾患の手術後の患者様、呼吸器疾患、心臓疾患の患者様が中心ですが、最近は外科の手術を予定されている患者様へのリハビリテーションの依頼も増えております
そのほか栄養サポートチームや認知症ケアチーム、呼吸ケアチーム、褥瘡対策チームなど各チーム医療の一員としても活動しております。
また院内で行われている糖尿病教室、2019 年からは産婦人科の助産師と共同で生後 3 か月～1 歳の親子を対象にした簡単な体操や褥婦に対して骨盤底筋群の筋力訓練などを行う『おやこ体操』というクラスも実施しております。
スタッフ数はリハビリテーション科医長 1 名（整形外科部長兼任）、理学療法士 11 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 3 名の合計 20 名で運営しております。

リハビリテーション科の施設基準
心大血管リハビリテーションⅠ、脳血管疾患等リハビリテーションⅠ、廃用症候群リハビリテーションⅠ、運動器リハビリテーション料Ⅰ、呼吸器リハビリテーション料Ⅰ

原著・論文

なし

学会・研究会発表

なし

看護部

令和３年度の学会・研究会発表は９、監修１でした。今回の研究発表の特徴は、新型コロナウイルス感染症に関連した内容があることです。どのような状況でも常に「患者中心」を念頭において、温かい笑顔で心のこもった看護を提供し、研究的視点をもって学習し続けていきたいと思っております。そして、既存の看護に新しい知識を加えていくことでより良い看護を提供していきます。

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①大迫明日香

重症 COVID-19 肺炎患者が腹臥位療法を継続し、気管挿管を回避した一例　患者の自己効力感を高めた関り

第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会　2021. 7. 1～7. 31

②深瀬史江

ポジティブ・デビアンス・アプローチを用いた手指衛生改善プログラムの実施可能性の検討

第 36 回　日本環境感染学術総会・学術集会　2021. 9. 19～9. 20

③羽太千春

入院案内の統一化への取り組み　～入院説明に関する患者満足度の向上に向けて～

第 75 回　国立病院総合医学会　2021. 10. 22～10. 23

④西原理枝

感染に対する知識と感染脆弱意識が手指消毒行動与える影響

第 75 回　国立病院総合医学会　2021. 10. 22～10. 23

⑤廣田尚美

0 レベル報告に対する意識改革への取り組み～アンケート調査からみえてきた事～

第 75 回　国立病院総合医学会　2021. 10. 22～10. 23

⑥貞永美里

活き活きと働く看護師のワーク・エンゲイジメントと職場環境の関連性　～UWES と PES-NWI を用いて～

第 75 回　国立病院総合医学会　2021. 10. 22～10. 23

⑦鴇田美奈子

新型コロナワクチン接種時に当院で試みた事前トリアージの有用性について

第 49 回日本救急医学学会　2021. 11. 21

⑧鈴木雪子

救急外来から脳血栓回収療法までの時間短縮のためのシミュレーション動画による看護師教育の有用性の検討

STROK2022　　2022. 3. 17～3. 19

⑨佐藤澪

祖父母学級受講と母親の育児への自信の関係性

第 35 回神奈川母性衛生学会学術集会　2022. 2. 5

監修

①牧野麻希子

KOYO　排泄ケアの手引き　失禁がある方へのスキンケアアプローチ編

（株）　光洋　ケアコンシェルジュグループ編集　2022. 3. 1　発行

看護学校

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①設楽香織

温湯を用いた清拭に対する実習指導者の考えと現状

国立病院総合医学会学術集会　2021.10.23

②古屋吉崇

看護基礎教育の進路支援に関する文献研究

国立病院看護研究学術集会　2021.12.11

相談支援センター（ＭＳＷ）

相談支援センターでは、ソーシャルワーカー６名、退院調整看護師９名で主に「退院に関する相談」と「入院中の療養相談」に対応させて頂いており、「退院に関する相談」については、退院調整看護師は病棟担当制による在宅支援、ソーシャルワーカーは診療科担当制による転院支援を中心に行っており、患者さんご家族の幅広く、かつ専門的な相談に対し「必要な場面に、より適切な部門につなぐ支援」を心がけ、業務にあたっています。なお、在宅支援では、患者さんがご家族とともに、最適な医療を受けながら安定した治療生活を送る事が出来る環境づくりの為に、退院調整看護師を中心にチームを組み、診療所・ケアマネ・訪問看護ステーション等と緊密な連携を取りながら支援を行い、転院支援では、治療に合わせた病院・施設等で加療出来るよう、ソーシャルワーカーが早期に患者さんやご家族と関わり、回復期リハビリテーション病棟・療養病棟等にご紹介・ご案内しています。

原著・論文

なし

学会・研究会発表

①高瀬昌浩

コロナ禍における MSW の覚悟と挑戦―職場外・職場内・自己研鑽の 3 つの視点から―

第４０回神奈川県病院学会　2021. 7. 12

②高瀬昌浩

シンポジウム：治療と仕事の両立に向けた支援

『急性期病院で「はじめる」社会復帰支援』

第 75 回国立病院総合医学会　2021. 10. 23

事務部

学会研究会発表

座長

①斉藤　貴之

シンポジウム　3　:「診療情報管理　×　ＵＸ（User　experience)」

第 75 回　国立病院総合医学会　2021. 10. 23～11. 20

５．あとがき

今回も図書委員会委員長の膠原病・リウマチ内科井畑先生や MA 三宅さんを中心に、多くの先生方、職員の方々のご協力により、2021 年度の年報が刊行になりました。各診療科、各部門の 2021 年 4 月から 2022 年 3 月までの業績もまとめられております。ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝いたします。

コロナ 2 年目となる 2021 年度は、多くの学会が Web あるいはハイブリッド形式で開催されるようになり、「with コロナ」として軌道に乗ってきた 1 年ではなかったかと思います。

国立病院機構臨床研究センター、臨床研究部を対象としたアンケート調査では、9 割の施設で　Covid　19 により臨床研究は影響を受けたと回答しています。学会発表への影響は大きく、一方論文発表への影響はほとんどないか、軽度な影響であったとの回答が大半を占めておりました。2021 年度は学会や臨床研究も

毎年、国立病院機構本部に報告している臨床研究活動実績ですが、2021 年度の当院のポイントは、617.2（当院での集計、機構本部による確定ポイントは、この原稿を書いている時点では未発表です。）で、コロナ前の 2019 年度の 583.4 ポイントと比べても上回っています。2021 年度は、治験症例数（1 症例 2.5 ポイントでしたが今回から 5 ポイントにアップ）、英文論文のポイントが大幅に増加したことが、その要因かと思います

治験等の獲得額は 2018～2020 年度は 4000～4200 万でしたが、2021 年度は、7500 万と大幅に増えており、機構内順位でも、2018 年度 35 位、2019 年度 32 位、2020 年度 25 位、2021 年度 17 位と順調にランクアップしております。特に救急科の先生方には Covid　19 関連の治験をはじめ多数の症例を組み入れていただきました。心より御礼申し上げます。

2023 年度から臨床研究部も、新体制でスタートいたします。今後とも御支援、御協力をお願いいたします。

臨床研究部長　小松達司

令和3年度 年報・臨床業績集

令和5年8月発行

発 行　独立行政法人国立病院機構　横浜医療センター
〒245−8575 横浜市戸塚区原宿3−60−2
ＴＥＬ 045−851−2621
ＦＡＸ 045−851−3902
Homepage : https://yokohama.hosp.go.jp/

編 集　業 績 集 委 員 会